

おかげさまで、どうやら『3周年』を迎えました。谷津干潟クリーン作戦

# ふがんど

号241号

1983.2.10

谷津干潟愛護研究会  
〒50 習志野市谷津字七 郵便番号  
電話〇四七四一五〇四四  
編集 森田三郎

会費年2000

発行  
1974.12.9

始めに、行動があった。

（アンドレ・モローワ）

が、谷津干潟クリーン作戦は  
これじゃ足りない。

だから、

途中にと行動があった、

そして又、更に、

今と行動があった、

これからと行動がある。

えっ？、何んですってえ、終り？！

“無い”。

そうです皆さん、何故ならば、

## “谷津干潟の有る限り”

谷津干潟クリーン作戦は、谷津干潟とそこに生きている生きとの産の身になって考え、他り、そしてつまずき転びつと実践してきました。

「もしお前が、谷津干潟だったら、何をしたいか。どうしてこれと訴えるか。何をつらく、悲しい、痛みとするのか。請う、干潟よ、あの「ふかんど」よ。汝今のままにて、告げよかし。されば、我ら為さん。機会を得るも得ざるも。ただひとえに、ただひたすら為しゆか

ん。“今度”、“そのうち”、“いつか”ということは不要なり。過ぎしこのかた汝が負いし、重荷と痛みを“十字架”と、我らと共に担いたし。“干潟の呼び声”、我ら信ぜまほし

この二月で、まる三年になります。感想としては、ずい分長く、ずい分、悪戦苦闘して来たんだなあ、という想いです。

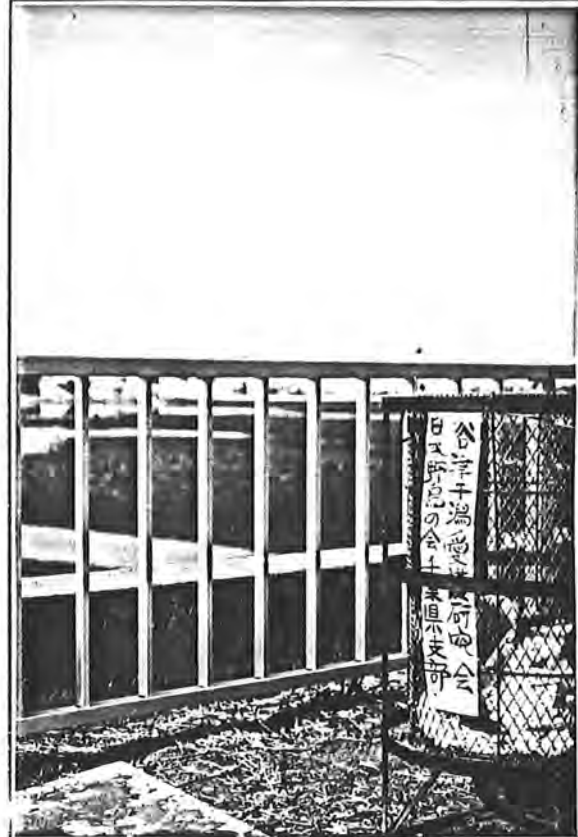
一九八十年三月、一回谷津干潟クリーン作戦が展開されました。その頃、この先どうなるのか、どうやってしていけばいいのか、お先まっくらのまま呱呱の声を上げたのです。でも、ヤル気だけは、そ外はずさまじりものでした。だから、自然保護団体が皆、何の相談もなく一回のみで身を引いてしまつて、その後の批判などに対して、気にしているヒマもなかったのです。

干潟のそばに住む、主婦の方々の参加・協力は、最初から続っており、最も理解してくれ、そして最も大きな力になってくれました。常々感謝にたえないと思っております。一般市民と、いろんな人がいろんな形で協力してくれております。前田建設、竹中土木を皮切りに、習志野市、千葉県企業庁、大蔵省、京成、鉄建公団、道路公団などが、クリーン作戦や環境保全に協力してくれました。

皆さん、今の谷津干潟、保存運動始つて以来、最もきれいになっていってますよー。

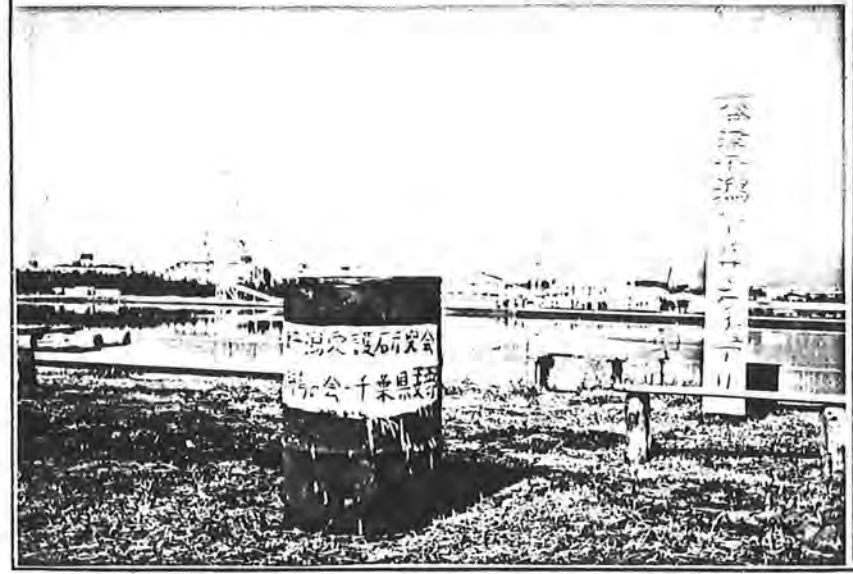
# 進む環境整備 (1)

# 谷津干潟通信箱 ~みんなの声~



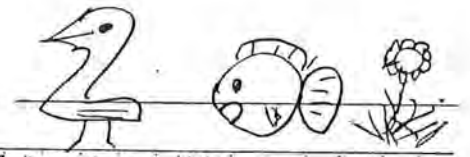
愛護研究会は、(財)日本野鳥の会・千葉県支部と共に、県企業庁と交渉して順次干潟の美化、整備を進めております。

↑くずかごを三つ設置して頂きました。  
↓ゴミを入れた為のドラム缶。三本設置しました。散らかる度合がとてま少なくなった。

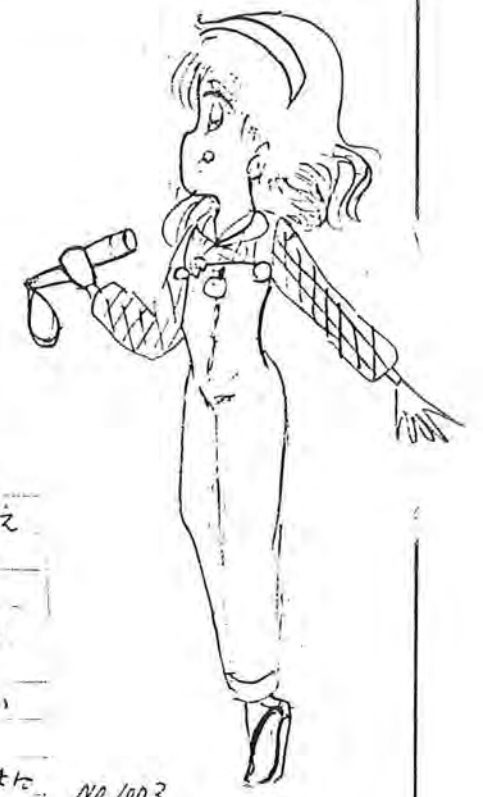


らんがきど、マニがき  
干潟のこえのうち



130日   
今日は、写生にきてかいていますし  
鳥が100は以上いました。  
ここは、いい所です。こうえんにしたろいな  
松原一  
NO.1002

1/27 PM 1:00~2:00 快晴・微風  
感激・そして感謝。  
シンマイヒはいいものです。いつも新しい鳥に出会えます。  
オカヨシガモ 2番も見せていただきました。  
願念が1つ増えました。  
トウネンの乱舞。即当地ははじめてですが、本当にありがとうございます。  
最初、間違えて若松団地より臨海沿い地方の方に迷いましたが、そこではハヤブサを見せてもらいました。せめてこの環境を現せて現状のまま止めてもらいたいものです。微かながら応援させていただきます。  
東京支部 3年生 佐々木義之



NO.1003

1/29 12:50 すずめが小さくて全体が茶色でくちばしは、明るい色で羽を広げると黄色がめだつ。いつも2羽一諾ですずめと共に行動している鳥がいます。なんという鳥ですか?  
NO.1004



S. A. 1/30 谷津干潟をよこして、F.A.の'野鳥の' 心がけを願って、おとう  
NO.1005

S. A. 1/30 谷津干潟をよこして、F.A.の'野鳥の' 心がけを願って、おとう  
NO.1006



# ふかんど

オ242号

1983.2.19

谷津干潟愛護研究会  
〒270 習志野市谷津平七 臨海3号  
電話〇四七四一五〇四四  
編集 木村 田三郎

会費 年2000

足 1974.12.9

### ゴミを拾うとその後に

正直に、正確に、はっきりと、そしてそのぶんだけ、ゴカイヤカニ、水辺の草や魚たちが、うじゃ／＼、ゆん／＼と増えるんです。ごちゃ／＼と増えるんです。その成果は目に見えて、＼ハッキリ、＼ガツチリ＼なってますから。

つまり、干潟が甦るんです。生きて来ます。生き返るそのサマが、手にとるよ／＼にわかるんです。何んてたった／＼か／＼か、皆さん、これ程大きな「慰め」や「報酬」はありませんよ。まったく、本当に、うれし／＼いやないですか、楽しい

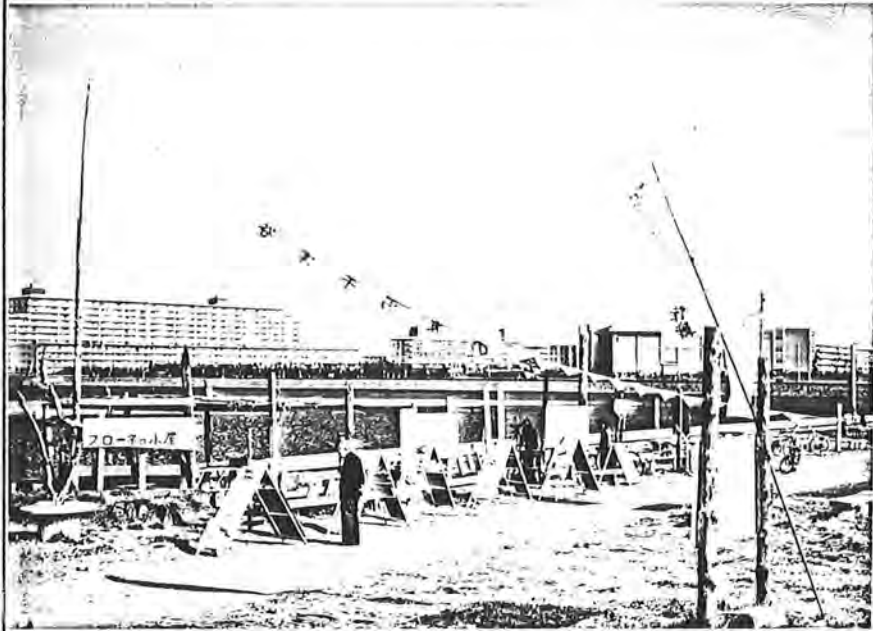
いやないですが、やり甲斐がこれこそあるってとんですよ。

谷津干潟グリーン作戦、そう大変です、奥にしんどいんです。ドロ／＼になつて、干潟の中のたうちまわらうてえところから。でもいいんです、お願い、止めないで下さい、よせなんて言わないで下さい。「この石やガラス、コンクリートや鉄板をとり除いたら、ゴカイヤカニ水草が、どんなに喜ぶだろうなあ」なんて想いめぐらすと、自然と笑いがこみ上げて来て、それこそ喜々／＼としてしまふんです。

そう、砂やドロに、春の気配を感じます。体の奥に、あの妖しいドラムの音が響くのだ。

## 谷津干潟に幸福を呼ぼう

このたび完成しました。「関根さん」という、秋津団地に住む80才位のおばあさんに作って頂いたのです。



只今、関根さんに、とうとう一つの旗と、のれんを作らせて頂いております。

関根さん、とうとうありがとうございます。あなたのおかげで、とうとうさわやかな、そしてスカッとして目につくような、「友の会の幸福の黄色いハンカチ」が出来ました。

## 満一年の「谷津干潟友の会」

「谷津干潟・友の会」という名前が世に出るから、三月でちょうど丸一年になります。日曜、休日ごとに、いつと干潟に誰かが出て、市民の為に望遠鏡や図かんを自由に貸し出し、観察のお手伝いしながら説明にあたつて参りました。これは実は大変なことなのです。地みちな地域活動に徹したいと思つて

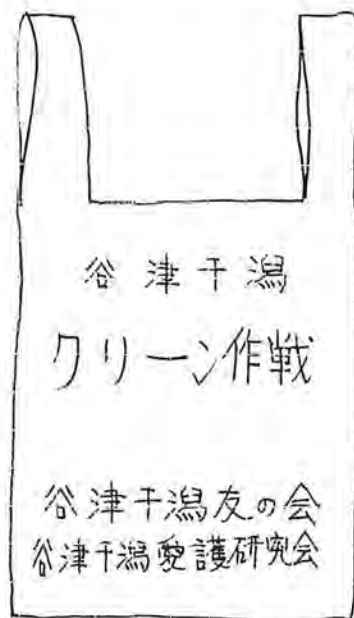
います。

# 進む環境整備(2)

作っておりますから

# 北風の自然緑地 二題

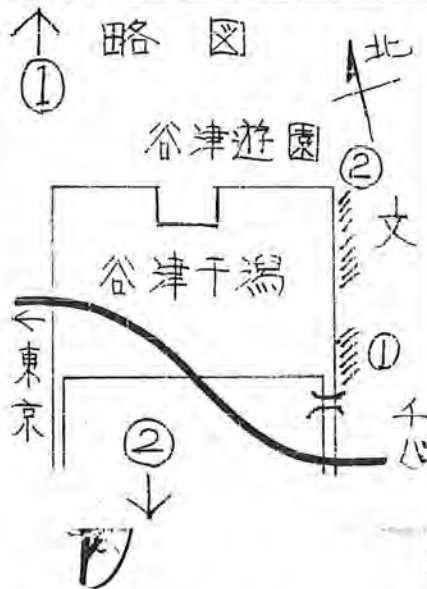
→このは、企業方と交渉の結果、植樹・緑化する事に決定。木の種類などは近日相談。



サイズ番号  
37号

サイズ  
30 x 38 (cm)  
ヨコ タテ  
色は白

100枚 510円  
1枚 5円10銭



↑ 略 図  
北  
文  
千代  
東京  
谷津遊園  
谷津干潟  
①  
②

(財)日本野鳥の会千葉県支部と愛護研究会は、県企業

部の美化協力の申し入れを受け、砂利・炭がら・ゴミ

をとり除いて頂きました。

袋間屋を、船橋でやっと見つけました。毎日、少  
しずつ時間をさいて、マジックで書いています。無  
地では、ちよっと「能」がなりと思っております。ど  
ひと回り大きいのがいいのですが、一枚十円近いの  
です。上記の如く印刷すると、一枚六円三十銭ぐら  
い。会社名を入れて、どこかにスポンサーになっ  
てくれるところを捜しております。

一枚ずつ書いてあります

干潟のそばのマンションに住む、橋本さん  
という主婦。愛犬「ラクーン」と毎日散歩に  
来ています。良き協力者であります。



秋津田地の子。「おじさん、ぼくの鳥死  
んじやったの。お墓作らして下さいー」  
と、悲しそうな顔をして言うのでした。



(立て木に、夕郎のおはか、と書いてある)

# ふかんど

第243号

1983.3.25

谷津干潟愛護研究会

〒270 習志野市谷津字七七 離荘E号  
電話〇四七四一五〇四四

編集 森田三郎

会費 年2000

発行 足 1974.12.9

## マーちゃんの小さな大福

それは、小さな大福だった。

ぼくはその頃、まだ六、七才くらいだった。小学校前だから、ほかの子は「さんすう」の勉強をしたり、ひらがなで自分の名前を書いたりしていた。ぼくはまっすぐだめだった。字を数字と読めないし、書けななし、見ても何んだかせんくゆからなかつた。

おぼく、「三郎、お

前いつまでも、太っころ

みてえにあそんでんじやぬ

えとあ。いいかあ、この前を

くめ七のおばさんから、

お宅のさぶちゃんを野放しに

しないでくれって言われて

んだかなあ」と言っていた。

そんなある日のことだった。近

所の農家のおばさんが、夕方、遊

んでいたぼくたちに、おまんじゅう(大福)を

あげてから家の中へ集まんと言った。そんな

に、ぼくのガキ大将、大好きなマーちゃんとい

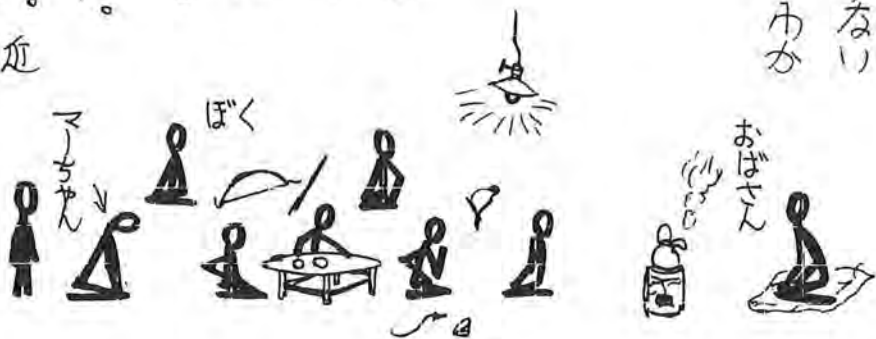
た。いくらどうきんで拭いても、手足は汚なく

、顔も黒く、服はガキ裂たかけ。

集ったぼくたちに、おばさんは、「さあ、一

つずつゆー、ー」と言って、みんなに大福をこ

めた。その頃、ぼくたちは、大福なんてめった



に食べられなかった。だから、とってまごちそうで、うめしく、ぼくは、少しづつ長く食べた。

食べてから、手についた白い粉を服で拭いていたら、「おやあ？、マーちゃん、どうしたのあ、どうして食べないのあ」というおばさんの声があった。みんな食べていたと思っていたので、ぼくは「あ、えー、ー？」と思って、マーちゃんを見た。マーちゃんは下を回っていた。で、座って手をひざの上においていたが、何だか力を入れて、伸ばしてかんぱーていっし、嬉好だった。「どうしたのあ、マーちゃん、きらいなあ？」、とおばさんが言った。マーちゃんは、さっきよりさっよっとぐらり下を向き、おくれ、さっよってな具合に、黙って頭を横に振った。そしておばさんが又、「おなか痛いのあ、んだからなあ？」と聞いたのだ。マーちゃんは、さっきよりさっよとあしくして、さっよってなように頭を振った。マーちゃんは、何か、じっとさっよえ、思いつみ、思いつめてみた。だ。殆んど真下の、ひざの前のタタミを見てぐらりで、動かないでいた。おばさんとみんなも、しばらく黙っていた。さらにおばさんは、「きらいじゃないんでしょ、食べたんでしょ、ぬっ」と言



# ふがんど

号244号

1983.3.30

谷津干潟愛護研究会  
 〒275 習志野市谷津三丁目 電話在E号  
 電話0474-511504四  
 編集 森田三郎

会費年2000

発行  
 1974.12.9

継続する力、其の意味

「実践は私達、そして評価

や判断は全て他の人に

よく言われます、「谷津干潟は恵まれて

了。全国的にどこでも、ゴミを拾おうと思っ

てど、行政が引き取ってくれない」と。そう、

私達と、初めはそうだった。が、見届しと目

安と当てと無い事、其れは信念の強弱の尺度。

この日は、主婦4人、幼児1人、そして森田の計5人。アシ原の中にカニの穴が



左から、野村さんの四才の坊や、松枝さん、種田さん、野村さん。

宮川さん、金庫を拾ったんだって。すごいねえ。いくら入ってたあ？



主婦の手のひらの上から

コミミズクが野ネズミを獲る

コミミズク・チーム(石川・五十嵐・藤富・坂梨・

森田)が、昨年10月より餌付の実験としてきたとの。

天候の如何に関係なく、庫日連夜、徹夜を何度をし

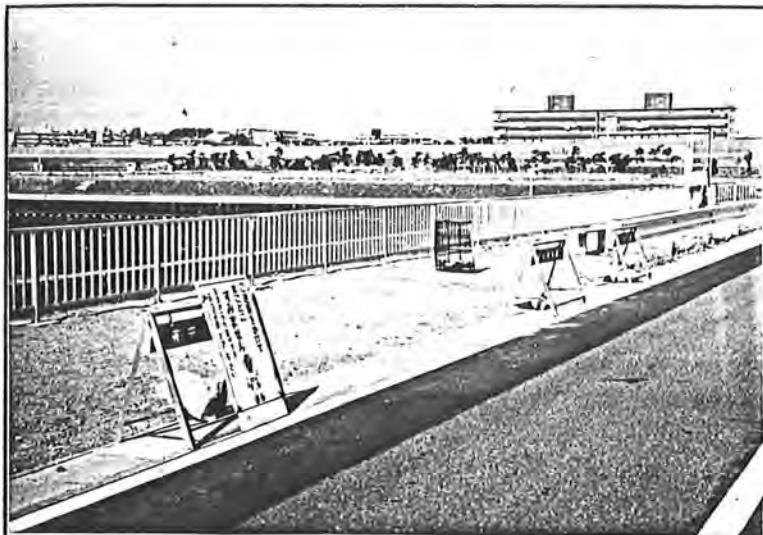
てきた。頭の上のネズミをとる。森田と車を焼え、

草むらに入りますと、夜の暗闇からスーッと飛んできて

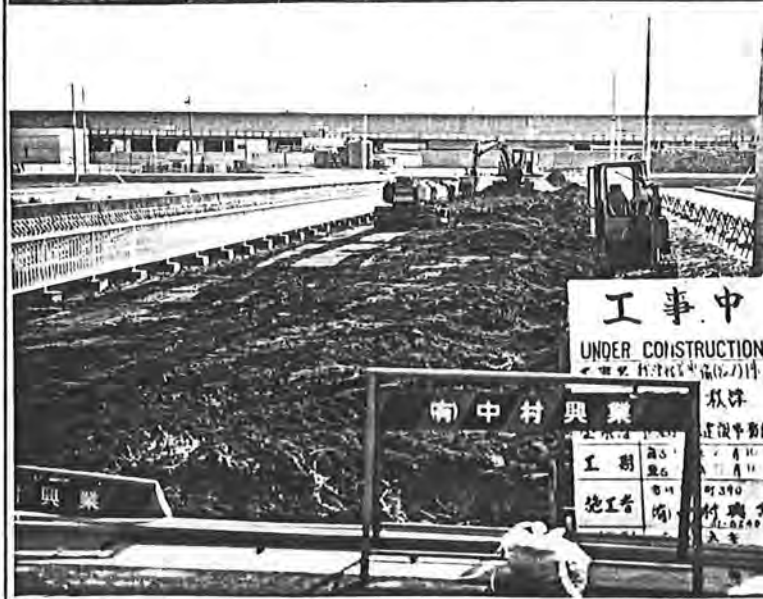
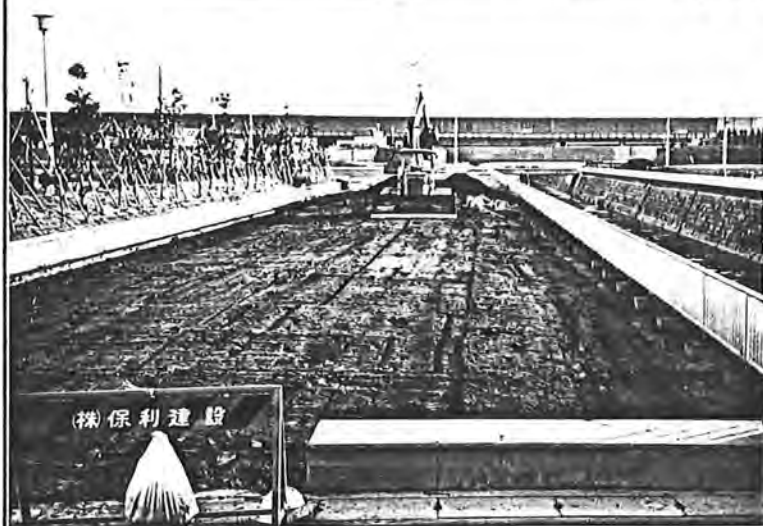
近くの杭にとまって待っています。

↑ 於：谷津干潟3/2 写真：谷津ハイソの主婦高木さん。

安全柵の設置・炭ガラ除去。

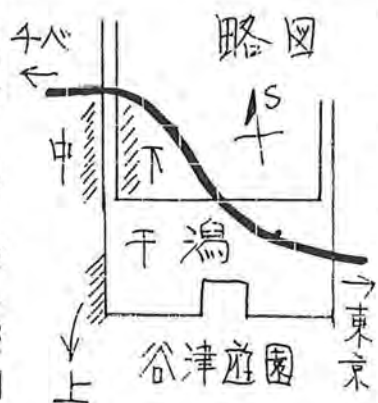


(干潟近くの水路)産業廃棄物・石・ゴミ・コンクリートの除去と整地。



企業庁も現地案内  
谷津干潟愛護研究会は、県企

業庁(京業建設事務所)長・  
柳田謙昌氏)と共に、ゴミの  
除去、安全対策を進めている。



六年目の春を迎え了。  
昭和52年5月に植えた、私産  
の桜の木。植えた時は50cmぐら  
いの、細いひ弱だった苗木と、  
干潟を毎日見つめながらすくす  
く育ってくれました。今はどう、  
大人の背高よりと大きくなった。

パンフレットなど。

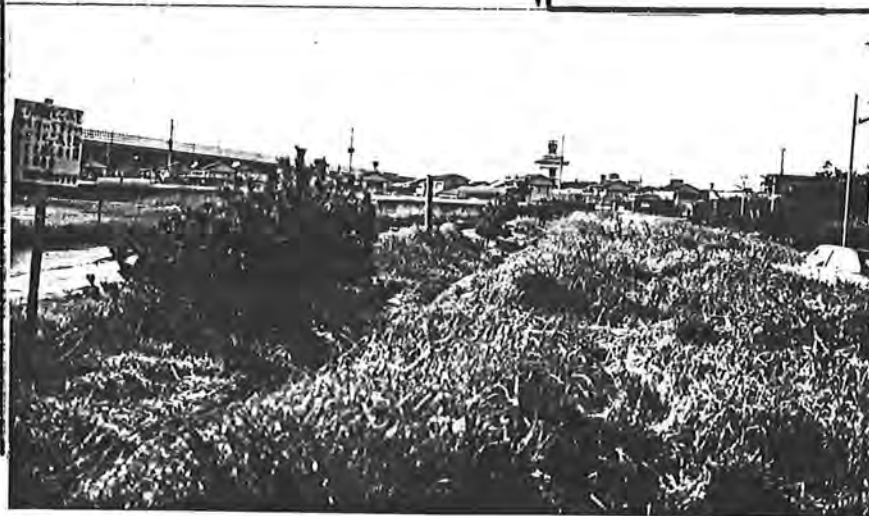
27日(日)・午前11  
時〜午後四時ま  
で行なわれまし  
た。5月にも行  
ないます。

谷津干潟野鳥展

谷津干潟に最も近い、秋津田地の中に  
ある、VVA50シヨツピニガガーデンで開  
かれました。3月16日〜21日まで。日本  
野鳥の会と共催。パネル180枚、干潟の絵、  
パンフレットなど。

バードウォッチングフェスティバル

(財)日本野鳥の会本部事務局・日本野鳥の  
会千葉県支部・谷津干潟愛護研究会。3月  
27日(日)・午前11  
時〜午後四時ま  
で行なわれまし  
た。5月にも行  
ないます。





# ふがんど

オ245号

1982.4.2

谷津干潟愛護研究会

〒市習志野市谷津三ツ七 隠荘E号  
電話〇四七四一五〇四四

編集 森田三郎

会費 年2000

創 立  
1974.12.9

## 赤の燈台と白の燈台

二つあった。埋め立てで姿を消してしま  
ったが、二十五年も前の昔、今の京葉秋埠  
頭ぐらりの所に一つ、赤の燈台。更に津田  
沼より、ホニダの埠頭ぐらりの所に一つ、  
これは白の燈台。

「あれがよあ、赤の燈台」  
だべえ、んでよあ、こっちに  
白の燈台があんべなあー  
ーしと、土地のみんなと、  
ぼくたちと、この二つの  
燈台をそう呼んでいた  
のだった。

見渡す限りの、はる  
か遠い干潟の沖にむか  
って、右の方には赤い灯の  
赤の燈台。そして左の方に  
は、白い灯の白の燈台があった。  
二つとも無人で、波向に浮んでいて、  
大きくゆっくりとユラユラゆれていた。

夜、暗い海の波が、タツプ〜と音を  
たてて寄せる土手道や、家の前の、広干  
潟の見える大きな根に登って、子供はぼく  
は、ぼんやりと、そしてぼつゆんと、この  
赤の燈台と白の燈台を見ていたのであつ  
た。子供心にも、そうしてると、何だか



不思議と、遠く見知らぬ何かに誘われ、心  
がきんりになり、すよ〜と淋しく、すよ〜  
とこわい、そしてその悲しい感じになった  
ものでした。

そのころ、赤の燈台と白の燈台は  
、これと言って何の目印もなかった  
、広い浅海のうみで、場所を話したり  
、いる場所の方向を教えるのに、よ  
くみんなの口にはぼつていた。

「三郎、いりかあ、あすこんとこ  
の燈台かなあ、おつかねえとこだか  
んなあ、行ったり近づいたりすんじ  
やねえどあーしおと、ええっ  
ぺえ早く流れてんし、んでなあ三  
郎、お前があすこに行ったらなあ  
、むかし海で死んだ人の霊がよあ  
、淋しがってお前を仲間にするべえ  
ってんで、海の中にゆんでよあ、  
足を引っぱんだかなあ、ーしと、  
母は時々言った。近所の人を死んで  
近づかなかった。

で、ぼくは、幼年から少年になっ  
た時、とうろく行った。干潟の突夫か  
り、約百五十米沖、早い潮流の中、思い切り  
ななめに泳いだ。とても怖かった。水の中で  
汗ばんだ。そしてやっ、と、盛り上ってくっつ  
いてる貝、いかつり赤茶びた鉄骨に手をか  
け、燈台によい登った。夏がスミの彼方のぼ  
くの家の方を見、「ヤッアホー〜しと叫んだ。



個人的な事ですが、森田の勤務先が決まりました。やあー、ふかんどの皆様、今晚あー、あたしコミミちゃん!

# ふかんど

号246号

1982.4.7

谷津干潟愛護研究会  
〒275 習志野市谷津平七 鴨荘E号  
電話〇四七四一五〇四四

文責 森田三郎

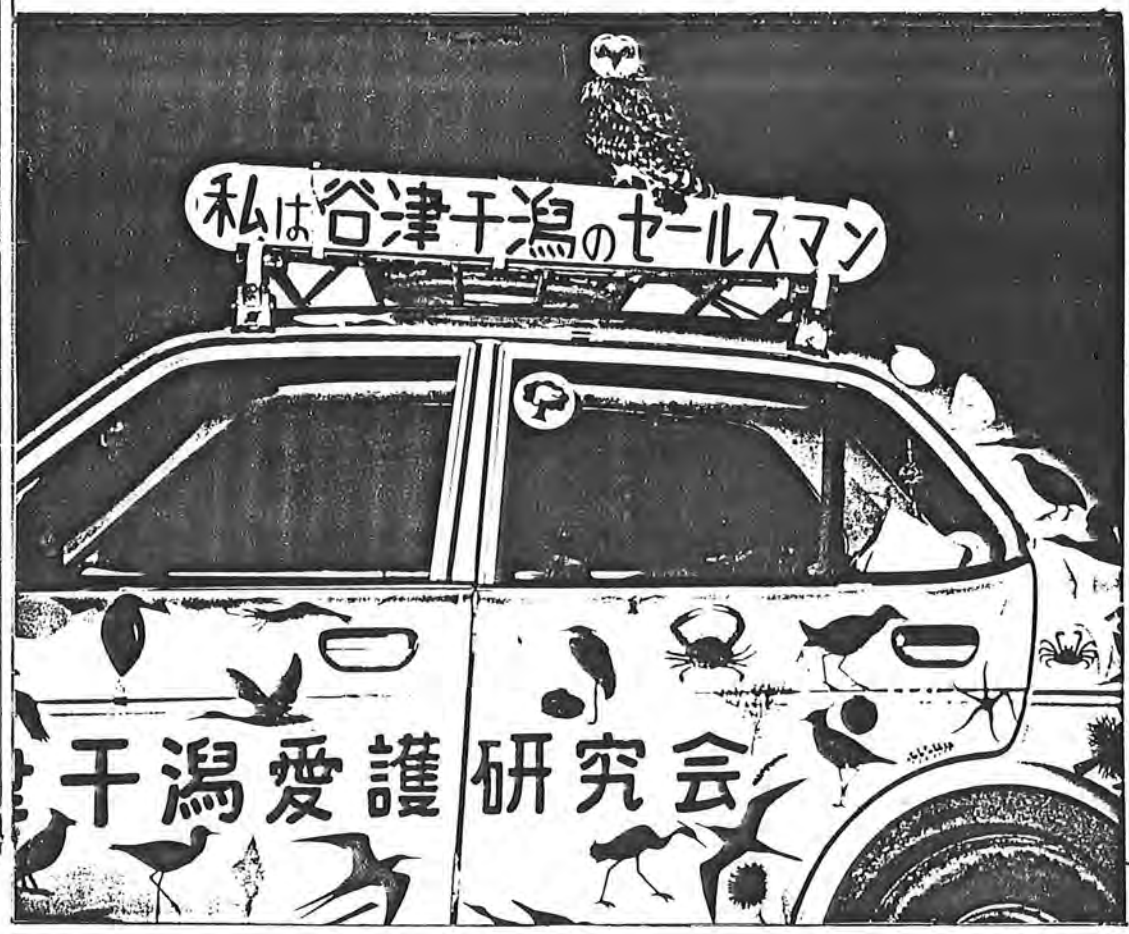
会費年2000

創立 1974.12.9

「あたしねえー、この冬う、まいにち谷津干潟自然緑地に、こうして来てりたんでやんすよあー。ハロー、ハロー〜」



車かけば、夜の闇より本で来て、かくの如し。



会員の殆んどの方は、知っておられたと思いますが、長い間、森田三郎は、無恥という状態でありました。

この度、左記なる会社経営者の相談により、就業することと相成りました。ここに連絡申し上げます。

湯浅食品株式会社

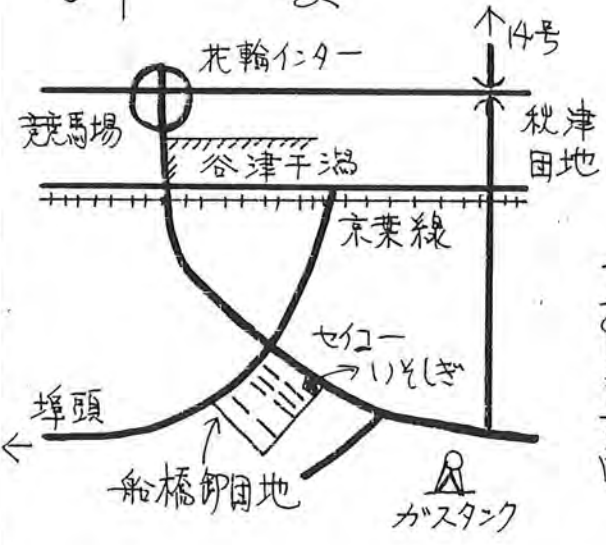
ー 総合つけものー

〒273 船橋市高瀬町2-1-2

(船橋卸田地内)

電話 0474・35・0221

(代表)



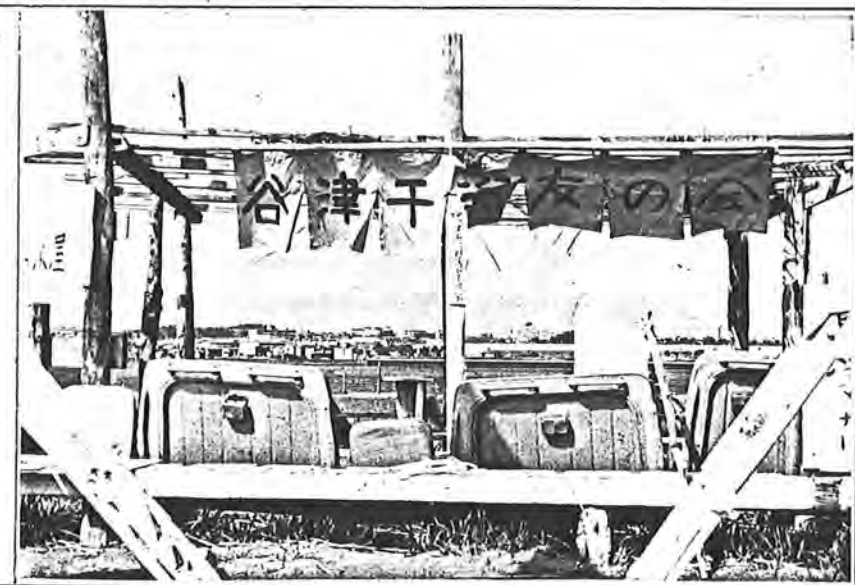
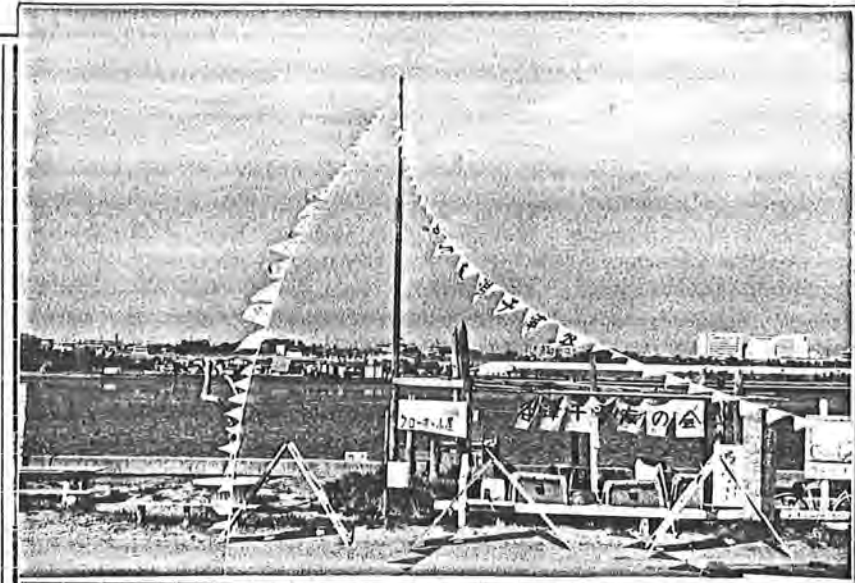
谷津干潟にとって近いので、とっても便利であり、何かと好都合であります。もし、これから、ご連絡や相談があった時は、勤務中でもかまいませんので、よろしくお願いいたします。その事、事業主と了解して頂いております由。

ー どうも皆さん、ご心配かけました。尚、これから、谷津干潟のボランティア活動を続けて参ります。

平日でも、毎日干潟に行きます。この先、なお一層の努力をしたい決意です。

# 春の干潟三題

谷津干潟に幸福を呼ぶ  
 黄色いハニカチ  
 の旗二本  
 左の字莫の如く、二本  
 目が完成しました。とし  
 て滑車付きのポールを。



水仙の花が咲き  
 ました。  
 場所は、「メダカ池」の  
 そばの草むらです。黄色い  
 花です。会報を手にする頃  
 は、十株ぐらゐ咲いていっ  
 しょう。



「のれん」が完成  
 谷津干潟友の会  
 フローネの小屋に下げられ  
 たのれんが、春風にゆれて道  
 ゆく市民に呼びかける、「い  
 らっしゃあーい」

## 鳥獣保護区設定問題で市長選へ向け提起

野鳥保護を市長選の争点に。環境庁による鳥獣保護区設定が市に浮いている谷津干潟問題で、日本野鳥の会(山下静一会長、同県支部(高橋敏夫会長)、谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)の自然保護三団体は九日、すでに名乗りをあげている習志野市長選の立候補予定者四人の事務所を訪問、谷津干潟への質問状を提出した。これら自然保護団体は、特定候補の応援など選挙への介入はしないが、市民が投票する際の「争点づくり」をした、としている。

## 出馬予定者に質問状

習志野で「争点づくり」役  
 住民三団体

質問状は「谷津干潟は国際的にも重要な渡り鳥の飛来地。市民の関心も高い」として、保護区養成と干潟問題への意見を求めている。三団体は、回答を四月十四日の市長選告示日とした。

尚、四月初めに生馬決定した、立崎誠一氏にも、四月四日に同文書提出。

# 次期市長に公開質問状

野鳥保護団体が質問状  
 習志野市長選出馬予定者  
 習志野市谷津干潟の飛来地として残っている谷津干潟の自然環境を保護区指定を求めている谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長、日本野鳥の会(山下静一会長)、同県支部(高橋敏夫支部長)の三団体は、九日、同市の市長選に出馬を表明している立候補予定者四人に保護区指定に関する公開質問状を出した。

質問状は、百七十項目を超える野鳥が飛来する谷津干潟は市街地の中に残る自然として貴重な財産になっているとして、候補予定者に保護区指定に関する意見を文書で回答するよう求めている。

同干潟に関しては、環境庁が保護区指定の方針を打ち出しているが、地元習志野市との負担分をめぐり折り合いがまだつかないままになっている。

# 谷津干潟 どう対処

1983.3.10 朝日



質問状は「谷津干潟は国際的にも重要な渡り鳥の飛来地。市民の関心も高い」として、保護区養成と干潟問題への意見を求めている。三団体は、回答を四月十四日の市長選告示日とした。

埋め立てから取り残された谷津干潟は、日本で確認された野鳥の三分の一以上の種類が集まる大飛来地。鳥獣保護区設定は

# ふかんど

号247号

1982.4.10

谷津干潟愛護研究会  
〒270 習志野市谷津三丁目 郵便番号  
電話〇四七四一五一一五〇四四  
文責 森田三郎

会費年2000

創立  
1974.12.9

メダカすくいに行きました

草むらの  
みどりと子どもに  
さしあはれて  
ようだようだの  
メダカとり



干潟のそばにある、秋津団地の小学生六年  
生、大木千恵子ちゃんと栗原奈奈子ちゃん。  
私の車に三人、幕張の埋め立て地まで行きま  
した。工事の為、すっかり変っていた。でも  
、500区ぐらいすくってきて、メダカの池に放  
しました。二人共、メダカすくいは初めて。

「この冬、皆さん、ほんとうにお世話になりました。」

「ありがとうございます。でも、シベリアに帰るんだあ。」

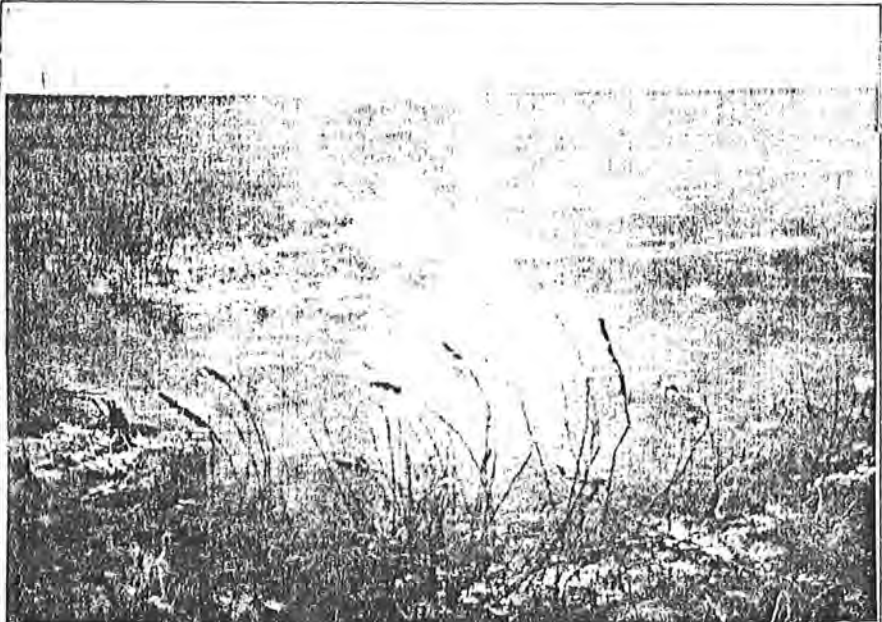


# 谷津干潟の鳥の情報

## 自然緑地、二つのこと

### 燃ゆる草はら

すべてが茶色の、一月中旬のこと、子供の火あそびがとどで、二度の草はらの火事があった。写真で白り所は、立ちのぼる炎である。会員五人で消火に当たった。



### キノコとヨシの草

火事があった後、県・企業と相談の上、残りのアミ原と草を刈り倒した。その後二ヶ月余。辺り一面黒こげの所に、無数のキノコが生えて来ている。



### 小雨の中で観察

#### バードウォッチング

谷津干潟

三月二十七日、小雨まじりの谷津干潟で、日本野鳥の会・谷津干潟愛護研究会主催によるバードウォッチング・フェスティバルが開催された。  
近くを通りながら、せわしなく追われてついでに見逃してしまふ谷津干潟。ふと足を止めた瞬間をのぞいてみると、かわいくくちがいでエサをついばんでいる鳥たちが見える。ユリカモメの群がはたと飛び立つ姿が見える。都会生活では耳にする事の少ない鳥たちの姿が観察できた。  
「谷津干潟は、世界的な野鳥の渡来地です。周辺は著しく開発が進んでいますが、私達は干潟を「都市の中の海」「市街地の野鳥の王国」として残したいと思っています。身近にある数少ない自然を市民の皆さんと大切にしていきたいものです。五月十五日(日)にもバードウォッチング・フェスティバルを計画しています。ぜひ参加してください。」野鳥の会干潟愛護研究会の志村さんは、力をこめて話していた。



谷津干潟でのバードウォッチング

<b>チドリ科</b> ハジロコチドリ コチドリ イカルチドリ シロチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ オオチドリ コバチドリ ムナグロ ダイゼン ケリ タケリ <b>シギ科</b> キョウジョシギ トウネン ヒバリシギ オジロトウネン ヒメウズラシギ アメリカウズラシギ ウズラシギ ハマシギ サルハマシギ コオバシギ オバシギ ミユビシギ ヘラシギ エリマキシギ コモンシギ キリアイ オオハシシギ シベリアオオハシシギ ツルシギ アカアシシギ コアアシシギ アオアシシギ オオキアシシギ カラフトアオアシシギ クサシギ タカフシギ メリケンキアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ シロハラチュウシャクシギ チュウシャクシギ ハリモモチュウシャク コシャクシギ ヤマシギ ママヤマシギ タシギ ハリオシギ チュウジシギ オオジシギ アオシギ コシギ <b>セイタカシギ科</b> セイタカシギ ソリハシセイタカシギ <b>ヒレアシシギ科</b> ハイロヒレアシシギ アカエリヒレアシシギ <b>ツバメチドリ科</b> ツバメチドリ <b>タマシギ科</b> タマシギ <b>ミヤコドリ科</b> ミヤコドリ <b>カイツブリ科</b> カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ アカエリカイツブリ カムリカイツブリ <b>ハタオリドリ科</b> ニュウナイスミス スミス	<b>ガンカモ科</b> コフハクチョウ オオハクチョウ コハクチョウ リュウキュウガモ アカツクシガモ ツクシガモ カムリツクシガモ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ シマアジ ハシビロガモ アカハシハジロ ホシハジロ オオホシハジロ メジロガモ アカハジロ キングロハジロ スズガモ コケワタガモ ケウタガモ クロガモ ビロードキンクロ アラナミキンクロ シノリガモ ヨホシガモ ホオジロガモ ヒメハジロ ミコアイザ ウミアイサ カワアイサ <b>カモメ科</b> ユリカモメ セブツカモメ オオセブツカモメ ワシカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ズグロカモメ クビワカモメ ミツユビカモメ ゴウゲカモメ ハジロクロハラアジサシ クロハラアジサシ ハシグロクロハラアジサシ オニアジサシ オオアジサシ ハシブトアジサシ アジサシ ベニアジサシ エリクロアジサシ コシクロアジサシ ナンヨウマミジロアジサシ マミジロアジサシ セグロアジサシ コアジサシ ハイロアジサシ クロアジサシ ヒメクロアジサシ シロアジサシ <b>クイナ科</b> クイナ オオクイナ ヒメクイナ ヒクイナ シマクイナ マミジロクイナ シロハラクイナ パン ツルクイナ オオパン	<b>サギ科</b> コイサギ ハシブトゴイ ササゴイ アカガシラサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ カラシラサギ クロサギ アオサギ <b>ワシタカ科</b> ミサゴ トビ ハイノロチュウヒ マダラチュウヒ チュウヒ <b>ハヤブサ科</b> シロハヤブサ ハヤブサ チコハヤブサ コチヨウゲンボウ チョウゲンボウ <b>フクロウ科</b> トラフスク コミミスク <b>ヒバリ科</b> ヒバリ ハマヒバリ <b>ツバメ科</b> ショウトウツバメ ツバメ <b>アトリ科</b> アトリ ヒメアトリ マヒワ <b>ヒヨドリ科</b> シロガシラ ヒヨドリ <b>モズ科</b> チコモズ モズ <b>セキレイ科</b> キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ マミジロタヒバリ コマシロタヒバリ ヨーロッパビンスイ ビンスイ セジロタヒバリ ムネアカタヒバリ タヒバリ <b>ホオジロ科</b> シベリアジュリン オオジュリン ホオジロ コジュリン <b>ヒタキ科</b> ツグミ亜科 ジョウビタキ ノビタキ ウタヒタキ コシキリ コノシキリ ツグミ セッカ <b>ムクドリ科</b> ムクドリ <b>カラス科</b> ハシホソカラス ハシブトカラス
---	---	---

調査 石川 勉 氏

# ふかんど

248号

1982.4.13

谷津干潟愛護研究会

〒270 習志野市谷津字七七 鶴荘E号  
電話〇四七四一五〇四四  
文責 森田三郎

会費年2000

創刊  
1974.12.9



## ある日の干潟4

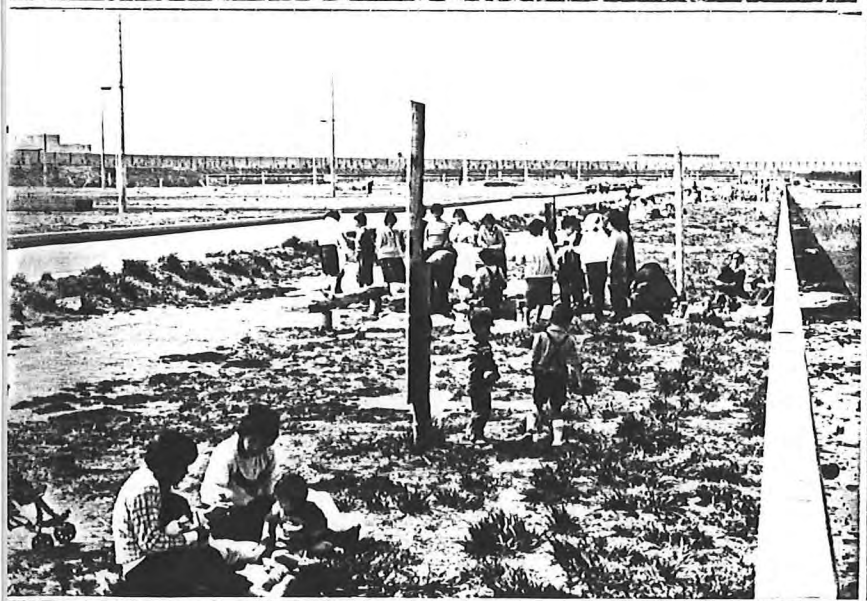
温かくなりました

これから、陽気が良くなるにつれ、ますます人の数が増えてくるのです。

これからの本当は、森田が、「谷津干潟友の会」の為に、「通りすがりにとった、その時のものです。午前十一時ごろです。一日

中の、のべ人数にすればかなりの人が来ています。

ひところ、五、六年前に比べると、ありがたいことに、ゴミを缶す人がごく少数でしかないということ。クリーン作戦や、保護活動のことが知られてきたせいでしょうか。我々のボランティア活動を急しくなります。



### 谷津千鳥友の会

とにかくにと、休日には必ず千鳥に行  
 って、市民の為に説明や観察に当っており  
 ます。道具としては、ノボリ、旗、のれん  
 、生物の標本、望遠鏡、図カン、パンフレ  
 ット、ノート、ペン、カンパのビール缶、

鳥の絵、そうろうものを用意してあるわけ  
 です。

このところ、すっかり陽気が良くなり、草  
 はらぎ緑の色が一面におおうようになりまし  
 た。友の会は、これからますます急がしくな  
 ります。会場をみて、清掃、ペンキ塗りとし  
 ていきます。



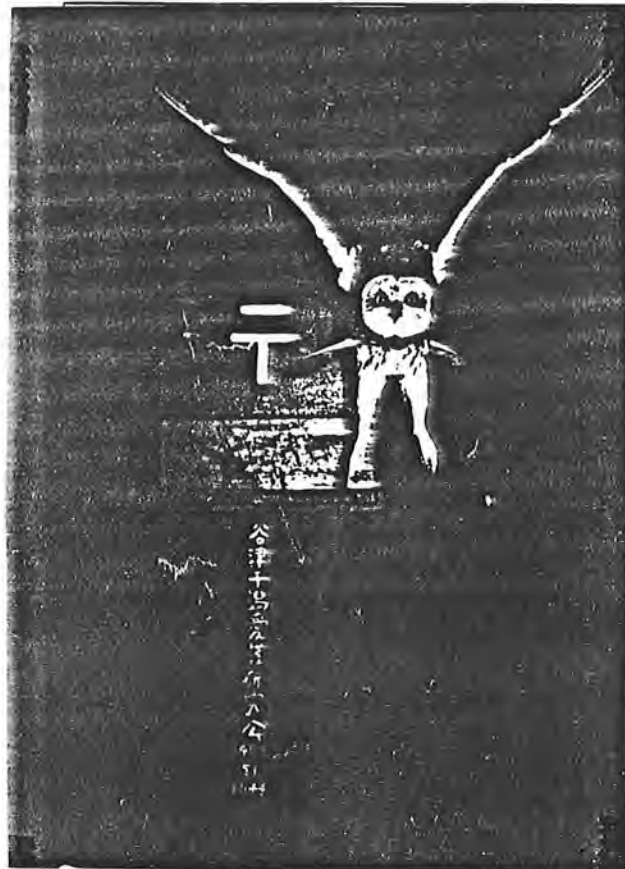
千鳥の生物標本が、とく  
 に子供たちに人気がありま  
 す。「へえー、谷津千鳥に  
 、こんな生きものがいるん  
 ですかあー、うー」と、そ  
 んな具合に。手にとり、ま  
 近に見ることが出来るせい  
 でしょうか。実物を見せる  
 のが一番手っ取り早いと考  
 えて作りしました。



谷津千鳥友の会 毎週日曜・休日 1.00~4.00 於 フロネの小屋

### 夜ごと出迎えてくれました

私の車が、ヘッドライトをつけ、テーブル  
 とベンチの所へ来ると、こうして近くのクイ  
 にとまって、待っていてくれました。(標津)



谷津千鳥の友の会





# ふかんど

第249号

1983.4.12

谷津干潟愛護研究会  
 〒275 習志野市谷津三七 鶴荘E号  
 電話〇四七四一五〇四四  
 文責 大林 田三郎

会費 年2000

創刊 1974.12.9

メダカの池の子供たち

すぐに、見つかってしまいました。メダカを放した、次の日のことでした。さっそく子供たちがメダカをすくりに、ひっきりなしにやって来ました。

すっかり春めいた、今日この頃。水と砂とドロがあったら、たちまちこんなふうになってしまうのでしょうか。メダカをなにとありません。取るなど、叱って来ましたが、私産はさう、くたびれてしまいましたー。



池の水は、ある一定の深さになると(約50cm位)、自然と流水出るよう、ミヅ(グラントキヤニオン)を作っております。池のまん中にある、「ひっこりひょうたん島」は、子供たちが乗ったり、砂あそびをしたため、かゆいところに、見る影もなくなってしまいました。

これから、ますます気候が良くなると、こういう光景はふえてきます。ボランティア活動の式々、更に大変になります。しかし、皆さんで一生けんめい努力して、地域活動に邁進して参ります。

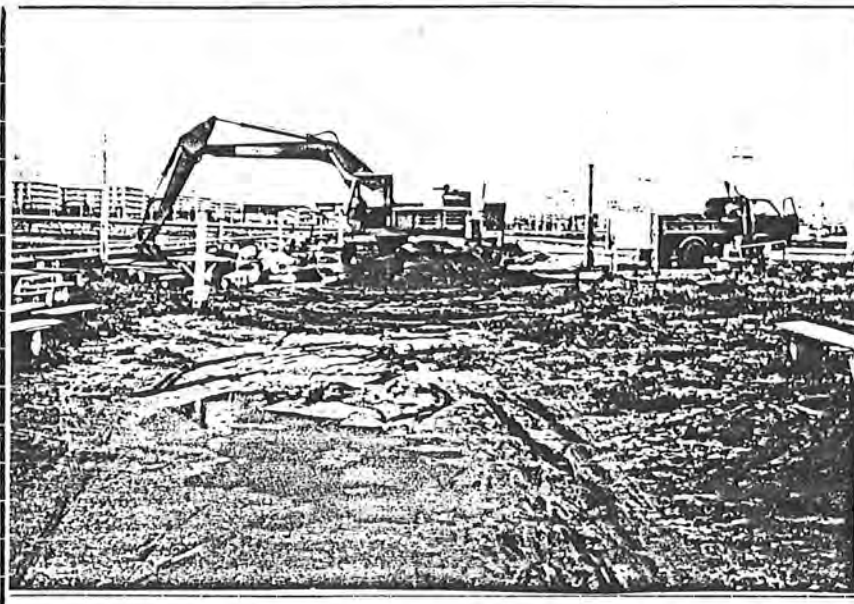
メダカの池のまわりでは、オーチャドグラスという牧草が青々と茂っています。



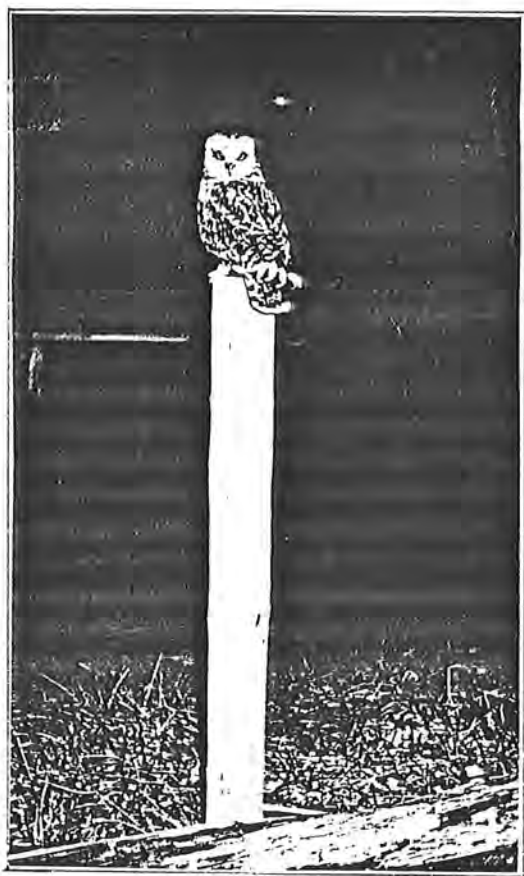
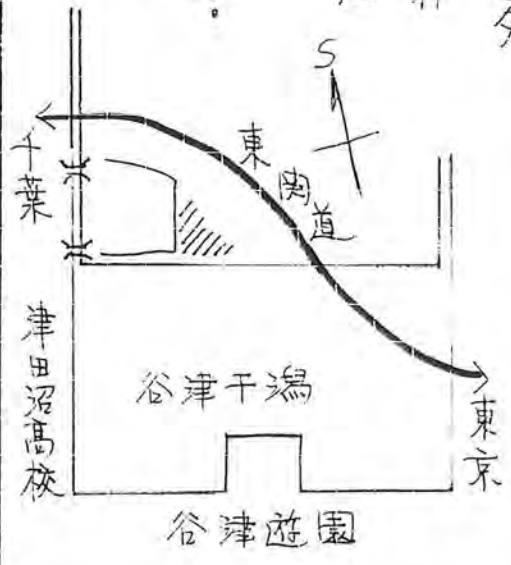
# 環境美化を進めています(5) すごい生長力

## 谷津干潟自然緑地のヨシ

今、この季節、ヨシやその他の草が、と  
のすごい勢いで伸びています。いやあ、  
その早いこと早いこと。一日ごと、ひと雨  
ごとに、すばらしい力で伸びていっています。  
やがてこのヨシ、三メートルになります。



千葉県・企業界に、要望、協議し  
て、石コロ、コンクリート、不法投棄物  
などを除去し、整地・美化しました。  
四月三と五日、三日間にわたって、作業が行なわれま  
した。パワーショベルとダ  
ンプカにて。その後、新  
しい、きれいな砂を厚ん  
で、ならしました。  
今度行って見て下さい。  
とつときれいになり  
ました。



早く、ネズミを下さりよっ！  
私の車が着くと、こうして暗闇の中から出て  
来て、近くの杭などにとまって、待っていた。

レンズ(標準)



# オ3回 谷津千潟合同クリーン大作戦

ふかんど・・・赤銅色の子供たちが、遠浅のうみで躍動していた頃の、昔の谷津千潟の名前

## ふかんど

オ250号

1983.4.19

谷津千潟愛護研究会

〒270 習志野市谷津三十七 郵便E号  
電話〇四七四一五〇四四

支責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

担うべし

主 催

信ぜまほしや、ふかんどへの  
痛みも重荷の十字架を  
千潟の呼び声身に満ちて  
彼我の境<sup>さかい</sup>を越えゆかん

(財)日本野鳥の会本部事務局

千葉県支部

谷津千潟愛護研究会

4月24日(日) 午前11時～午後4時

集合 フローネの小屋、テーブ  
ルとベンチのある所に一度  
集合して後、それぞれ  
場所に分散して行き  
ます。

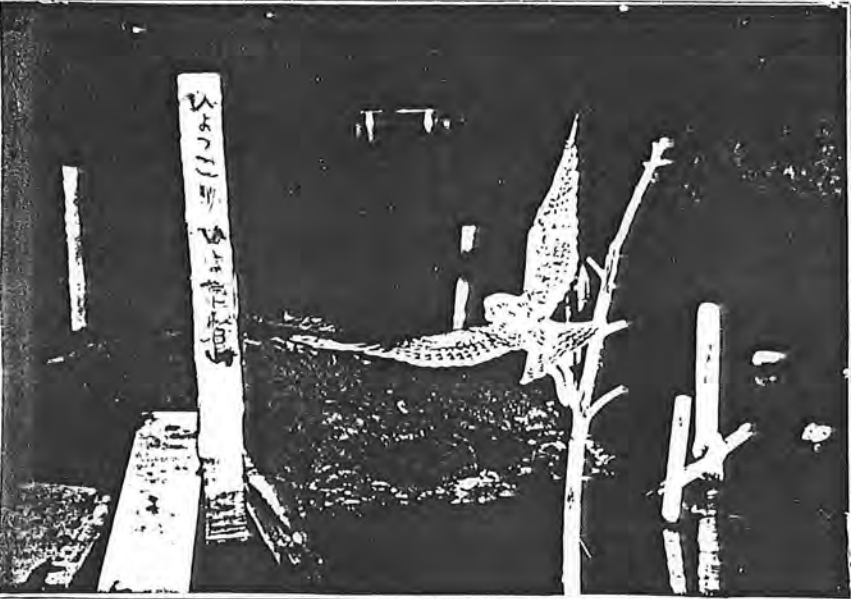
今や、谷津千潟保存運動の、あるいは地域  
活動の、最も大きなうねりになっておりま  
す。強力な説得力を持つに至りました。

谷津千潟クリーン作戦をして、今日の大  
を反す、不撓不屈の、雑草の生命力の如き  
継続の力は、周辺住民はもとより、国、県  
、市、企業庁、道路公団、鉄建公団、企業  
、として、子供や老人の協力を、その流れと  
して来しました。

### メダカの池のコミミズク

今度は、メダカの池で、いろくな演技  
させてもらいました。私(森田)がメダカ

の池にいれば、コミミズクはそこに飛んで来  
て、はなれなりのでした。私が行く所、ノコ  
ノコとついて来てしまおうのです。





Vol 251 遺失

# 45万円選挙奮闘記

## ふがんど

オ252号

1983.5.1

谷津千瀧愛護研究会  
〒25 習志野市谷津千瀧7-1-1  
電話0474-511504  
文責 木林 田三郎

会費年2000

創立  
1974.12.9

習志野市・市議選挙

なにくづくしで、悪戦苦闘

しめて、選挙に要した費用、45万円也。  
と言つても、その中には、中古車の購入が  
25万。そして、供託金10万が入つていての  
ことである。

伊波尚義氏(秋津より立候補)のことで  
ある。

谷津千瀧の保存を、真っ向から、正面き  
って堂々と掲げた。自然保護をこうして前  
面に出した人は、いままでに皆無であった  
。又、森田のように、自然保護関係の人間  
が、思い切つて、選挙運動の先頭に立つて  
、奮闘努力したのを、習志野市の選挙  
では初めてのことである。

「自然保護は東にならない」「い  
う、いわば、定説」知きものを、なんとか  
ひっくり返してやろうと思つていた。

史実費用、10万円。安い！。とにかく、  
車はその後と使えりし、伊波氏と近いうち  
買おうと考えていた。供託金の10万円も、  
これを返つてくるものである。

クリーンな選挙、明るい選挙を強く声高  
に叫んでいた伊波氏。10万円では、ほんと  
に金がないから、いやがらでも、スケキ  
の、明るい、クリーンな選挙にならざるを  
得なかつたのである。

すべて、手作りであった。

看板は全部、自分産で作った。事務所なし。  
すなわち自宅。スケジュール表も、ダルマも  
なし。うぐいす嫌なし。公共掲示板以外、ポ  
スターは一枚も貼らな。選挙運動の経験者  
は一人もない。粗糲票や、支持団体はゼロ  
。スタッフは主婦とサラリーマン。

選挙戦に入つて、他の候補の車がくり出し  
ても、我が「伊波陣営」は、やっとペンキを  
塗つて、看板を車に、トニカチと針金でつけ  
ていた。そんなところを通る他の候補が、「伊  
波候補、ガンバシテエ下さあーい」なんて声  
をかけていくのであった。

「伊波さん、8時まであと10分ある、が  
んばらおうよっ、」と森田が言うと、「とっ  
おそいしり、うるさくって迷惑だよ、小便  
が溜っちゃってさあ、そんなにやったらボ  
ウコウが破裂しちゃうよ、早く帰るよよ  
い、なんて、運動期間中、万事コノ調子。皆ん  
など素人で、マイクの知識もないので、ス  
ィッチを切らなから、車の中の話し声が、ス  
ピーカーから出っ放しで車が走つて行くので  
した。

「谷津千瀧の森田、伊波氏の応援に駆けつ  
けましたっ、」なんて、くどい位ド声と  
張り上げていたので、さし落すたら  
、谷津千瀧の面目にかかわる  
と思つていたのである。



伊波尚義氏... テニアンで誕生、沖繩で育つ。明治大学。革新無所属。

1112票獲得して、めでたく当選。おめでとう。よかった、よかった。んでお--- 疲れたらあ---

# すばらしい晴天の日、谷津干潟合同クリーン大作戦(第3回)



干潟のすぐ近くの住民が、気持ち良く水道を提供してくれました。皆んな安心して、汚れることが出来ました。



やっと干潟の中から、ドロドロのおけを引き上げました。その重いこと。



板を使って、干潟を歩き、清掃しました。足のつけ根まであるゴム長は、重労働。



文句なしの五月晴れ

セツキ

ヒバリと若草の、温い日、4月24日(日)  
。日本野鳥の会本部、千葉県支部、東京支部、栃木県支部、神奈川支部、埼玉県支部、そして、谷津干潟愛護研究会の6団体。又、散歩や観察に来ていた市民の協力もいただき、約140名で行なわれました。これから、渡り鳥の最盛期。渡り鳥の為に、すみやすいようにしておいてやりましょう。それでは、又秋に。

コアシサシ・コチドリ・シロチドリ 繁殖調査、その九年の流れ

# ふわんど

号253

1983.5.2

谷津干潟愛護研究会  
 〒276 習志野市谷津字七七 野田区  
 電話〇四七四一五〇四四  
 文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

よおーし、今年とやろー！

4月17日(月)。快晴。本年初めて、  
 のコアシサシの声を聞いた。谷津干潟  
 の上空、二羽、白い翼が舞っていた。

コアシサシ

声に交わりはなれぬと

想いはめぐるさまさまに

移り交りの埋め立て地

九年の流れの走馬灯

かの日かの時よみがえる

昔は想いの出 自承るり

九年前、八十以上あった巣が、昨年は  
 二百三十程しかなくなっていました。

東京湾奥部の、荒川から千葉市・花見  
 川まで。葛西・浦安・京葉港・幕張、約  
 三千里に及ぶ埋め立て地のことである。

そのうち、葛西・浦安・京葉港は、コ  
 ロニー(集団営巣地)と、そして、巣を  
 作る場所すらなくなり、壊滅してしまっ  
 た。今はただ、幕張埋め立て地、それと  
 ほしの一部だけを残すのみとなった。

ジグザグ状に歩くとはいえ、かつての  
 時にくらべれば、はるかに調査はらくに

なった。

私ほど、埋め立て地を歩き、身をこって接し  
 、知り、経験し、その移り交りを見てきた人間  
 は、他に誰をいいたいだろう。

あのたぐさんの、夏の日々のことごと、暑さ  
 、大砂じん、砂と貝がらの砂漠のような所での  
 行軍、それらが今となっては、とても、たまらな  
 くなつかしいと想うー！

全滅するまで、最後の一つが

消えゆくまで。

そう、私は、彼らコアシサシ、シロチドリ、  
 コチドリと付き合う覚悟である。

すべては、私、森田の個人的意志によるもの  
 である。こけらの渡り鳥の営巣地が、行政や自  
 然保護団体、あるいは組織などで、卵とヒナの  
 保護がなされたこと、事実は一度もなかった。

私は今、谷

津干潟近くの、  
 漬物会社に勤  
 めている。窓  
 の外の白い雲  
 や緑の草原と  
 見ると、武者  
 振りがし、い  
 て立ち止ま  
 いらぬくな  
 っている。



↑ 土く木の陰に身をひそめる、コアシサシのヒナ

調査に同行したい人は、森田まで連絡。

044-51-5044 勤ム先 447-35-1221(湯浅食品)



# 谷津千潟バードウィーク展

場所 習志野市秋津田地・ビバ50

一階の玄奘入って、すぐ右

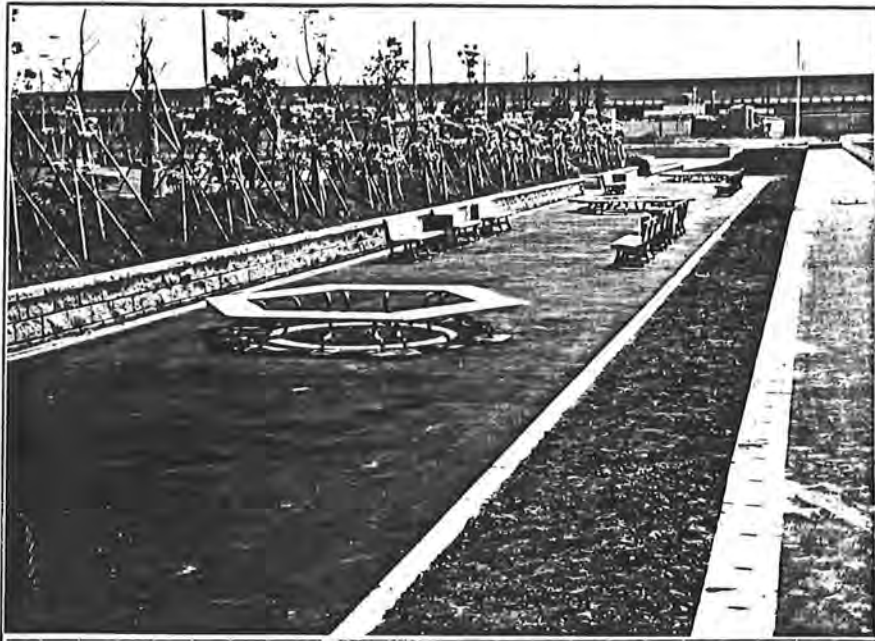
期間 五月十四し五月三十一日<sup>まで</sup>

(マ、ニ、三火曜日は定休日です)

バードウィークに因んで行います。谷津千潟の渡り鳥を中心に、環境写真、ボラントイア活動、千潟の説明、ビジョン、繁殖調査地図、千潟の生物標本など。

## 主催

谷津千潟友の会  
谷津千潟愛護研究会



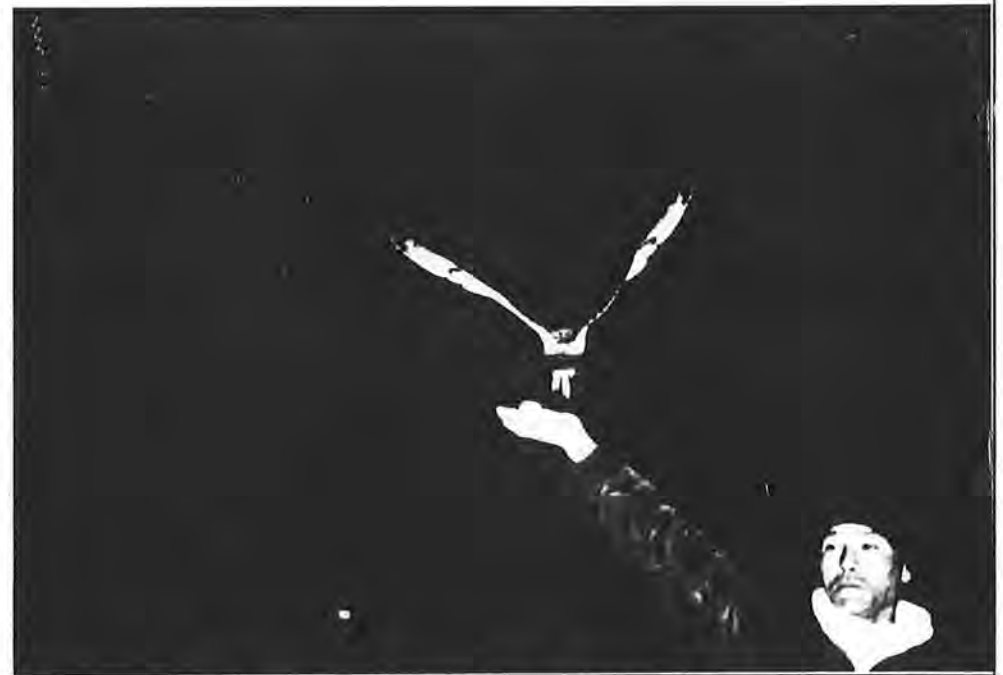
石ころ、炭ガラ、ゴミの山をどかして

場所は、千潟の東側水路のきわ、橋のそば、児童公園に隣接している。京葉建設事務所々長を現地案内した。石ころ、ゴミがひど

かった。土の所は植樹します。

↑ 57年8月、企業庁との交渉による  
↓ 56年12月、建設省千葉国道事務所、道路公団との交渉によるもの

ゴミズクと共にすごした半年間でした



今年の二月。私が来るのを待っていて、ついて来て、ちから不ズミをつかんでいった。

千潟を自然公園と想定するところ

谷津千潟自然緑地と湾岸道路との境目にある。コンクリートを出来るだけ多く使いたがる、建設省と道路公団に対し、一本でも多くの木を植えようとする愛護研究会(森田)の結果。建設省も公団も、計画よりはるかに自然環境をとり入れてくれました。



花は、朱色のシシジブである。

撮影 山崎 勉氏 下中央の白い鳥は湾岸道の街灯

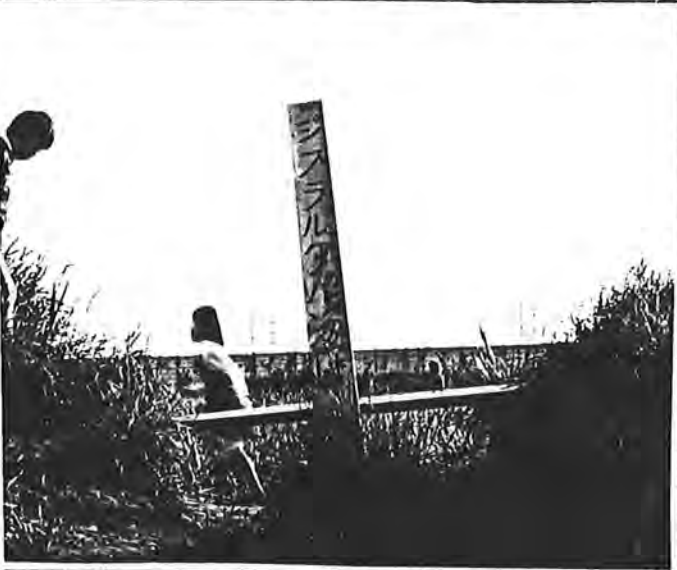
池カダメの日(5月5日)のメダカ池



「あれく、まあく、まっ裸になっちゃってえーい。お母さんに聞いたら、これでいいんだってさあ。」



「グラウンド・キャニオン」にかけた橋。でもこの板、ベニチの為なんだけどゆえ。」



「ジブラルタル海峡」とよの橋。登ったり降りたり渡ったり、木ズミみたかった。」



スコップを貸してくれ、というから、少時して行ってみました。いつまでくく、ドロ水の中で足ぶみをしている。」



「おじさんゆえ、この砂もあつたかくって、寝っころがんと、気持ちいいよあ」と。」



「グラウンド・キャニオン」にかけた橋の下。穴を掘ったり、タンポコを植えていました。」

# ふかんど

第254号

1983.5.6

谷津干潟愛護研究会  
〒275 習志野市谷津三ツ七 跡在E号  
電話〇四七四一五〇四四  
文責 森田三郎

会費 年2000

創刊  
1974.12.9

<b>チドリ科</b>	<b>ガンカモ科</b>	<b>サギ科</b>	
ハジロコチドリ	コフハクチョウ	ゴイサギ	
コチドリ	オオハクチョウ	ハシブトゴイ	
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ	
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカガシラサギ	
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ	
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ	14
オオチドリ	カンムリツクシガモ	チュウサギ	
コバシチドリ	オシドリ	コサギ	9
ムナグロ	マガモ	カラシラサギ	
ダイゼン	カルガモ	クロサギ	
ケリ	コガモ	アオサギ	1
タゲリ	トモエガモ	<b>ワシタカ科</b>	
<b>シギ科</b>	ヨシガモ	ミサゴ	
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ	
トウネン	ヒドリガモ	ハイネロチュウヒ	
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウヒ	
オジロトウネン	オナガガモ	チュウビ	
ヒメウズラシギ	シマアジ	<b>ハヤブサ科</b>	
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ	
ウズラシギ	アカハシバジロ	ハヤブサ	
ハマシギ	ホシバジロ	チゴハヤブサ	
サルハマシギ	オオホシバジロ	コチョウゲンボウ	
ユオバシギ	メジロガモ	チョウゲンボウ	
オバシギ	アカハジロ	<b>フクロウ科</b>	
ミュビシギ	キンクロハジロ	トラフズク	
ヘラシギ	スズガモ	コシミズク	
エリマキシギ	コケウタガモ	<b>ヒバリ科</b>	
コモンシギ	ケウタガモ	ヒバリ	+
キリアイ	クロガモ	ハマヒバリ	
オオハシシギ	ビロードキンクロ	<b>ツバメ科</b>	
シベリアオオハシシギ	アラナミキンクロ	ショウドウツバメ	
ツルシギ	シノリガモ	ツバメ	+
アカアシシギ	コホシガモ	<b>アトリ科</b>	
コアアシシギ	ホオジロガモ	アトリ	+
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワヒワ	
オオキアシシギ	ミコアイサ	マヒワ	+
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	<b>ヒヨドリ科</b>	
ウサシギ	カワアイサ	シロガシラ	
タカフシギ	<b>カモメ科</b>	ヒヨドリ	
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	<b>モズ科</b>	
キアシシギ	セグロカモメ	チゴモズ	
イソシギ	オオセグロカモメ	モズ	
ソリハシシギ	ワシカモメ	<b>セキレイ科</b>	
オグロシギ	シロカモメ	キセキレイ	+
オオソリハシシギ	カモメ	ハクセキレイ	
ダイシャクシギ	ウミネコ	セグロセキレイ	
ホウロクシギ	ズグロカモメ	マミジロタヒバリ	
シロハラチュウシャクシギ	クビワカモメ	コマミジロタヒバリ	
チュウシャクシギ	ミツビカモメ	ヨーロッパビズイ	
ハリモモチュウシャク	ソウゲカモメ	ビズイ	
コシャクシギ	ハジロクロハラアジサシ	セジロタヒバリ	
ヤマシギ	クロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ	
アマミヤマシギ	ハシロクロハラアジサシ	タヒバリ	
タシギ	オニアジサシ	<b>ホオジロ科</b>	
ハリオシギ	オオアジサシ	シベリアジュリン	
チュウジシギ	ハシブトアジサシ	オオジュリン	
オオジシギ	アジサシ	ホオジロ	
アオシギ	ベニアジサシ	コジュリン	
コシギ	エリクロアジサシ	<b>ヒタキ科</b> ツグミ亜科	
<b>セイタカシギ科</b>	コシクロアジサシ	ジョウビタキ	
セイタカシギ	ナンヨウマミジロアジサシ	ノビタキ	
ソリハシセイタカシギ	マミジロアジサシ	ウミス	
<b>ヒレアシギ科</b>	セグロアジサシ	コヨシキリ	
ハイイロヒレアシギ	コアジサシ	オオヨシキリ	
アカエリヒレアシギ	ハイイロアジサシ	ツグミ	
<b>ツバメチドリ科</b>	クロアジサシ	セッカ	
ツバメチドリ	ヒメクロアジサシ	<b>ムクドリ科</b>	
<b>タマシギ科</b>	シロアジサシ	ムクドリ	+
タマシギ	<b>ウイナ科</b>	<b>ガラス科</b>	
<b>ミヤコドリ科</b>	ウイナ	ハシホソガラス	+
ミヤコドリ	オオウイナ	ハシフトガラス	+
<b>カイツブリ科</b>	ヒメウイナ	アオジ	+
カイツブリ	ヒクイナ	キジノゼト	+
ハジロカイツブリ	シマウイナ		
ミミカイツブリ	マミジロウイナ		
アカエリカイツブリ	シロハラウイナ		
カンムリカイツブリ	バン		
<b>ハタオリドリ科</b>	ツルウイナ		
ニューナイスズメ	ホオバン		
スズメ			



チガヤ  
高さ、30し50cm。  
比較的高い、砂質の、水はけの良い所に群生している。わたのような、白い穂が風に吹かれて、しっせいにゆがくとゆがています。



タンポポ  
干潟のまわりには、4種類ぐらいのタンポポがある。これは黄色い花、何となく名前なんだらう、今が盛りです。



野菊の一種だろ。緑の草原の中に、白い花がかたまって咲いているので、目立って、すぐにわかる。アブがあちこちと、とんでいきます。

調査  
石川 勉 氏

ヨシキリ、ヒバリ、セッカの音がすごい。一度おりになさいな---

# ふかんど

★255号

1983.5.17

谷津干潟愛護研究会

〒26 習志野市谷津三十七 鷗荘E号

電話〇四七四一五〇四四

文責 木村 田三郎

会費年2000

創立  
1974.12.9

今日も又、谷津干潟に陽が沈んでゆくのでした

正月と、盆と暮も

なかりけり

逢き世の義理にも

うとくなり

ふかんど大事の我小事

雨の日 風の日 夜中として

一目相見えて、納得、す

親の心配 十とヤ 積み

自ら業かき憶えたり

「ふかんど、ふかんど、時と金

心もすべてなびきたり

だけぐくく、父母の

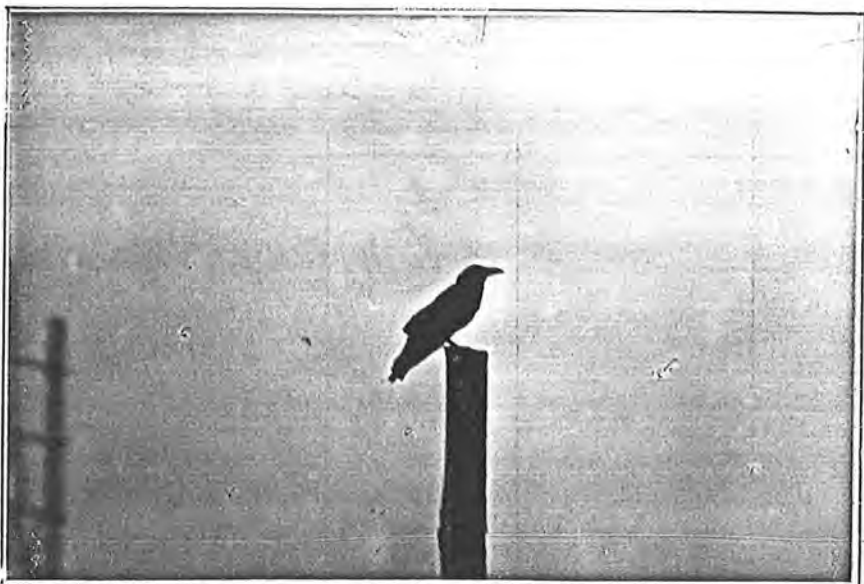
我への想いに比べたら

自然帰護の叫びとして

うたかた如きかよよく葦



受話機が一瞬重くなりました  
「おふく了、どうだ、元気か」と  
言う時いちばんつらき時  
幼き頃のがき大将  
としもマーちゃん生きてたら  
我に代りてこんな時  
しゃちこばって謝まらん  
夕陽が沈む谷津干潟  
チドリ（の）音が身に痛り



「カラスが、かあーかあー」

陽が沈む頃、月見草の花が

にぎやかだけど、淋しい。



# ふかんじ

※256号

1983.5.16

谷津干潟愛護研究会

〒275 習志野市谷津字七七 鶴荘E号

電話〇四七四一五〇四四

文責 森田三郎

会費年2000

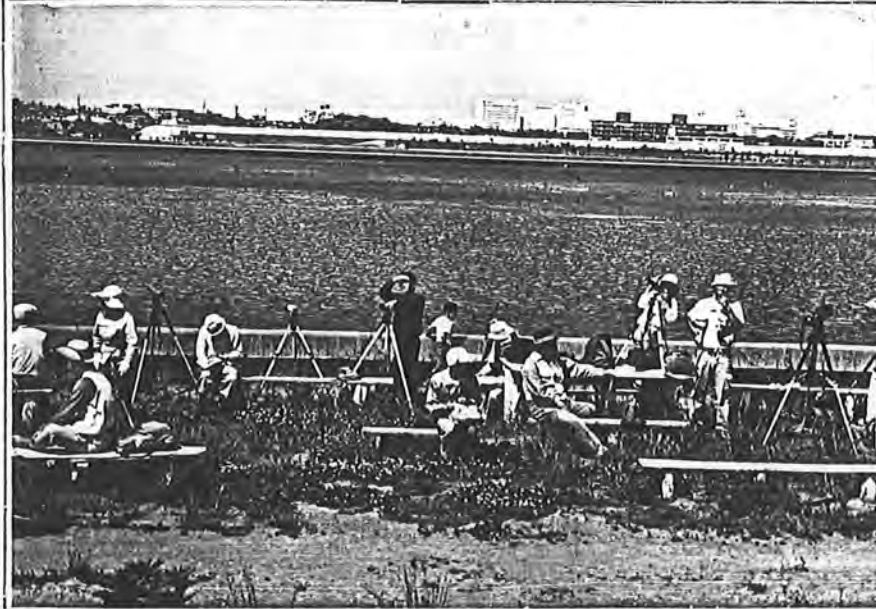
倉立 1974.12.9

## 最高の人生

### バードウィーク フェスティバル

オ3回。5月15日(日)。  
3度目の正直にして  
、文句なしの五月晴れ。

谷津干潟保存運動始って以  
来、こんな多くの人参加し  
たことは初めて。とに角多  
、又、とに角疲れた。何日本  
野鳥の会・千葉県支部の皆々  
人、ご苦労さまでした。



作業の合間をみてー。



「あ、飛んでる、見えたあ」。奥はこの坊や、飛行機を見てるんです。マア、いいじゃないの。

深木のベンチのまわりに咲き乱れる、クローバーと月見草。んで、ぼく、ベンチになりたい。



「あーあ、つかれちゃったあ、よあーいしょと」

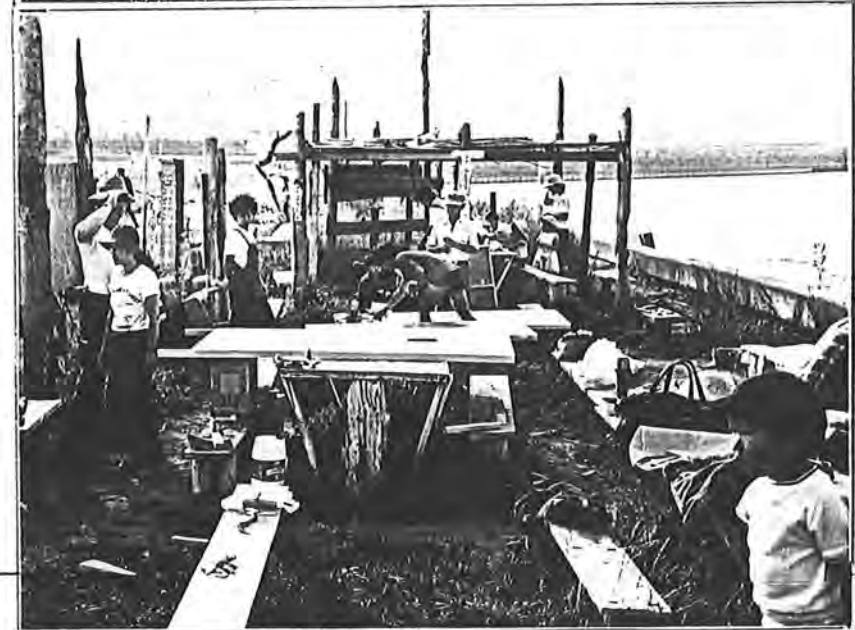
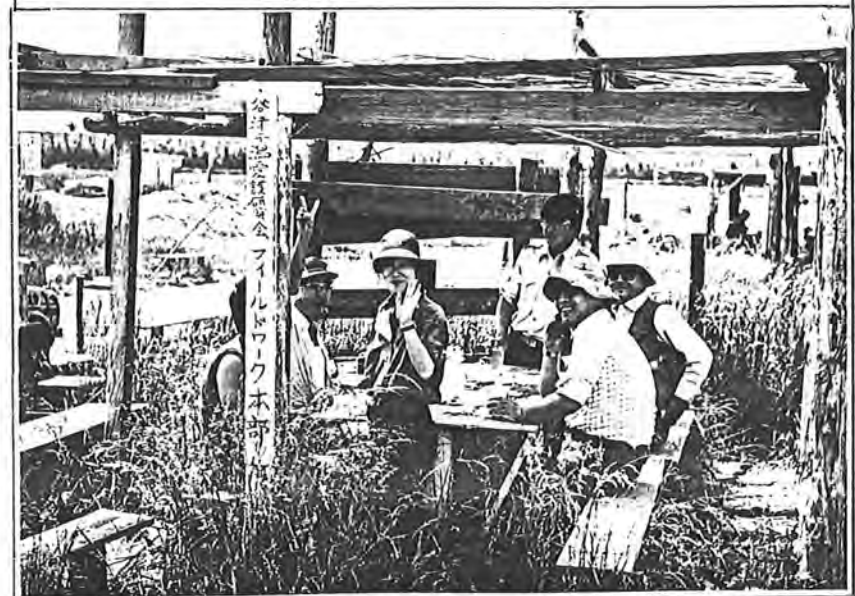
## バードウィーク・フェスティバル の準備

日本野鳥の会・千葉県支部の皆さんです。見てみると、やはり、さすが「芸」が細い。いわゆる念が入ってます。アクが強く粗末乱造にして、野武士の如きわが谷津干潟愛護研究会とは、だいぶ趣き

が違いますなあ。

今、谷津干潟保存運動を支えているのは、唯一えに、ボランティア活動によるものです。

現在、自然保護運動は、全国的にみても、批判や告発、単なる主張やアッピールの時代は終りつつあります。市民の根強い支持と得らねないし、だりいぢ納得さ外なくなつて来ています。私産、身を以って帰った10年です。



# 谷津干潟自然緑地のボランティア活動

## ふかんど

第257号

1983.5.20

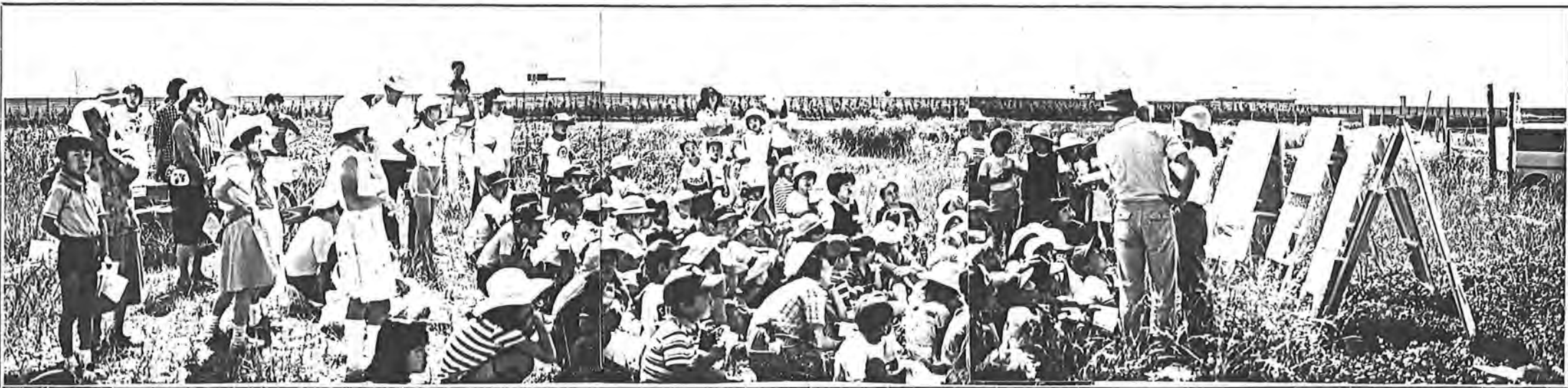
谷津干潟愛護研究会

〒66 習志野市谷津干七 郵便E号  
電話〇四七四一五〇四四

文責 大森 田三郎

会費年2000

創立  
1974.12.9



### 草原の紙芝居

上の写真は、(財)日本野鳥の会・千葉県支部による、秋津田地子供会の為の紙芝居です。

お母さんと子供達、およそ60人です。

この季節、この草地には、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリ、カルガモ、バンなどが卵を産み始めております。

日本野鳥の会と谷津干潟愛護研究会が、千葉県との長年の交渉の末、やっと勝ちとった草地です。谷津干潟と一体化した、自然環境の為の土地利用計画が認められたのです。

紙芝居している時にも、空には、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリの声がかましく程に聞えています。紙芝居を終えてから、県支部の望遠鏡で野鳥の観察をしました。



紙芝居としていたかわらでは、近くの田地のお母さんと子供達が、クローバの花輪を作ったり、草笛や虫取りをしていました。これからは、この草地を皆んなのきのにする為、私達は努力していきます。

主催(財)日本野鳥の会  
千葉県支部

協力 谷津干潟友の会





攻撃しなくなった、コアジサシたち

草の根、みたいなもの、二つ

# 谷津干潟友の会

「存じ、カラスの鳴かない日はあって、友の会の、「幸福の黄色いハニカチの旗」がひるがえらな日はないので。日曜、休日に、望遠鏡、双眼鏡を貸出し。



あの、糞と小便の  
攻撃がなつかしい

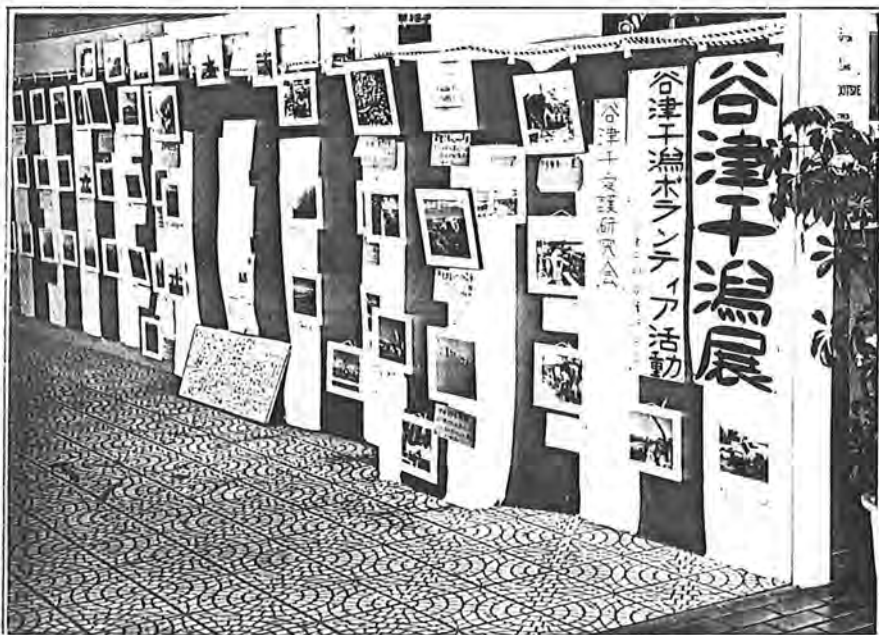
まだ、コロニー（集団繁殖地）が健在で、広大な地域に展開していた頃。そこに入ると、否、近くに姿を見せただけで、それこそワンスと押しかけて来て、

蚊のように頭上をせん回し、急降下を次々としては、あのフンからなすバクテリアを落していった。イワシ、ハゼ、マールタ、カレイ、エビといった生きた小魚を食べていたので、その臭いこと、汚いこと……。

私の頭や肩、腕まで、ピチャッ、ピ

# 谷津干潟展 5/21 ~ 5/31

「ありし日の谷津干潟周辺と赤銅色の子供たち」のイラスト（4m x 18m）、干潟の渡り鳥、環境写真、会報、案内パンフレット、干潟の生物標本、各種ボランティア活動を紹介。



チャットと、くっつくのでした。頭の上に急降下した時、「ヒュッ、ヒュッ」と、翼で風を切った音が聞えた。

ふだんは、澄んだかん高い声で鳴くの、とってとたくさんのが、私の所集って来て鳴くので、「ジャー〜、ギャー」と聞えた。

しかし、それが、とくにここ2、3、4年程前から、あまり攻撃しなくなってきた。コアジサシの数、すなわち、営巣数が少なくなるとついで、攻撃しなくなってきたのである。昨年と比べて、減っている限りでは、2、3回ぐらいであった。かつては、内心、彼らに気まわり悪くなってしまう程であったのに……。

これら、いと小さき世のなれどと...

# ふかんど

号258

1983.5.23

谷津干潟愛護研究会

〒270 習志野市谷津字七七 鶴荘E号  
電話〇四七四一五〇四四  
文責 青木 森田 三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

カイザルの物はカイザルに、  
神の物は神に

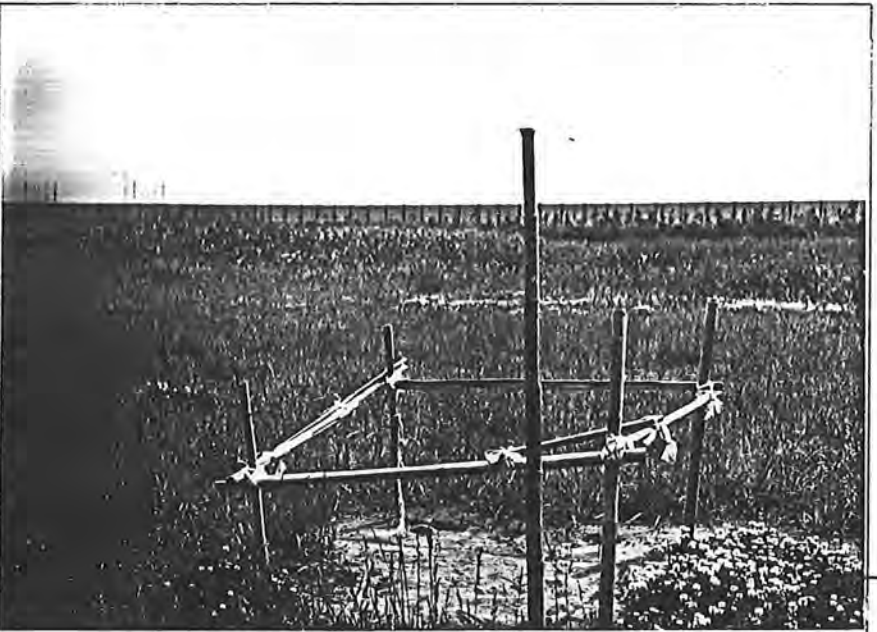
ーナザレトのまゝ  
教師よりー

私達、干潟の負える重荷を共に負い、事  
の大小を問わず、何くれとなく日々為し得

ることと為し、機会を得ると得ざるも、た  
ゆむことなく邁進する。必ずに価値あると  
のならば、遂行し、努力する価値あるのだ。  
この他、何の方針をいらぬもの。  
約と行為は我らのもの。他を了すすべての  
もの、ことごとくは我らの手中におらざるもの。



「おじさん、森田さ  
んていうんでしょっ。  
んで、ここんとこあた  
し達、大好きなの、よ  
く来んの。だから、こ  
こにヒマワリとホウ  
センカの種植えていい  
ですか?」。小仏由美  
ちゃん(左)と、武居  
美紀ちゃん(右)とそ  
の弟が言いました。



谷津5丁目の宮川さ  
ん(上)と、谷津三丁  
目の本宮さん(下)で  
す。常座のベテラン、  
松枝さんは風邪をひい  
たんですって。お大事  
に。  
この日の「儲け」は、  
ゴミ袋10と一輪車之台  
分。かつてゴミの所に、  
今はカニと水草の天国。



岡本文良さん

写真の右が岡本さん。左は干潟を守る会の大沢清さん。



「ふかんど」300号、

谷津干潟クリーン作戦100回。そして、

伝記と創作という二つの本が出来たのは、とってまうれしいことです。

谷津干潟が、本のテーマ、舞台となるのはこれが初めてです。私達の活動が、習志野市という地域社会に少しは貢献したかな。

大林百合子さん

右が森さん。左は中村さん、

愛護研究会の中村さん。



# よみがえった野鳥の楽園

毎日1人で谷津干潟清掃



死にかけた谷津干潟(ひがた)の清掃に、たった一人を取り組み、野鳥の楽園をよみがえらせた森田三郎さん(右)と習志野市谷津三丁目をモデルに、自然保護と人間のかかわりを描いた二つの作品が、森田さんの生きざまに打たれた二人の児童文学作家によって書き上げられた。一つは、講談社から発行された森田三郎さんの創作物語「ハンカチ形の海の思い出」。もう一つは今月末、PUP研究所から発行される岡本文良さんのノンフィクション「とりもどせ ぼくたちの海」。叙情をベースにした創作と森田さんの闘いをストレートに出したノンフィクションといふ違いはあるが、いずれも森田さんの人生観や価値観を盛り込み、子ども向けに書かれている。

## 森田さんモデルに本

「ハンカチ形」の作者森田さんは習志野市の出身で、第1回講談社児童文学新人賞を受賞した気鋭。かねてから故郷千葉の自然の変わりようを目にし、自然保護について書くべきテーマを探していたという。そんな時、朝日新聞の「新入国記」で森田さんの記事が目に入った。たまたまに森田さんに連絡して会い、森田さんの出している新聞を読み、何度も取材し、構想を固めた。物語は、ある秋の日、干潟の近くに引越して来た少女エリカを主人公に、干潟をよみがえらせるために一人で努力し続ける草野青年、その周りの人々、エリカの家族たちの織りなすドラマ。森田さんの真情は草野青年に託され、女性らしい繊細な筆致で

本誌記事で知った作家一人

## 生き様、赤裸々に描く

描かれている。「とりもどせ」の岡本さんと少年向けという制約の中でも、同じ記事で森田さんを知った。PUPの出版熱を、さめないうちに一気に書版物でハンセン病や辞書製作は、同社の「壁を感動のノンフィクション」シリーズ第一弾に年向けの作品となる。二つの作品は、森田さんの執筆に、同社が意をこめてきつめた。今年度は小学校で森田さんは、相変わらず干潟通「ハンカチ形」を「と持ちか」制約をより少なくするため、仕事は新聞配達からタクシードライバーに変わった。森田さんは、乗っている落書きだらけの軽自動車も、十回以上森田さんを訪ね、クリーン作戦」を続け、自分で干潟へ足を運んで発行する新聞「ふかんど」も近で取材を重ねる。少年のころの森田さんと、「ハンカチ形の海の思い出」は九百八十円、「とりもどせ」は八百八十円。

干潟を見つめる森田三郎さん  
習志野市秋津の谷津干潟で



森田さんをテーマにした二つの児童文学作品

# ふかんど

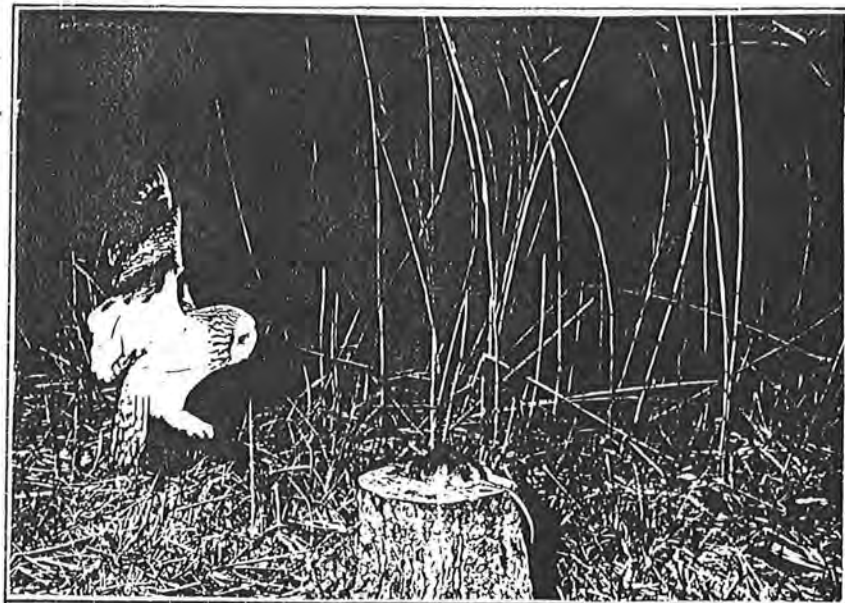
オ259号

1983.5.26

谷津干潟愛護研究会  
〒276 習志野市谷津三七七 鷗荘E号  
電話〇四七四一五一一五〇四四  
文責 森田三郎

会費年2000

創立  
1974.12.9



又、会おう!

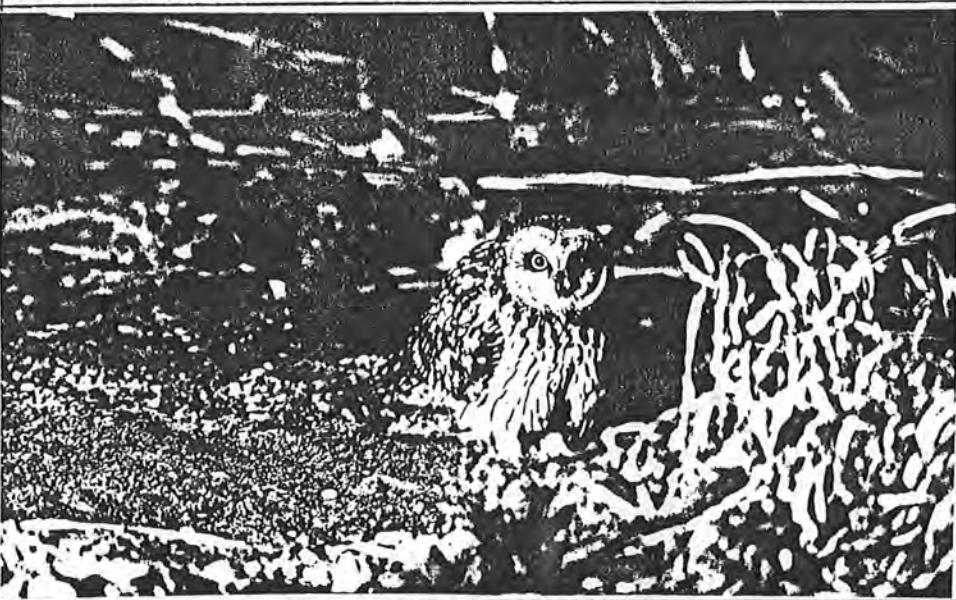
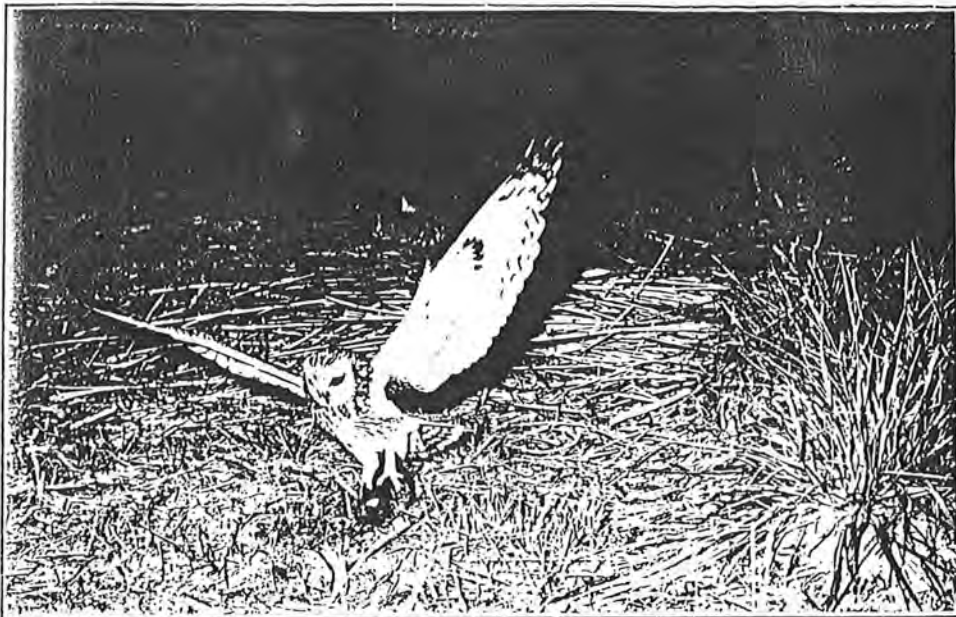
## さらば、コミミズク

4月9日。この日を最後の姿として、  
コミミズクは北へ、シベリアの白夜の地、  
ツンドラへと帰って行きました。  
谷津干潟自然緑地にて、昨年の10月か

ら、一日と欠  
かさが、餌付

けの努力をして来ました。彼の、北へ帰る日を、  
調査、確認出来たのは、おそろしく日本でも、私  
鹿だけでしよう。私鹿コミミズクチームを支え  
てくれた、会員・市民の皆さま、ありがとうございます。

撮影 坂梨輝男



# 三上文一・習志野新市長の回答書を紹介させていただきます

新市長と  
話し合いました

五月三十一日(火) 三上文一

新市長と話し合ひがとたれま  
した。ととと、心良く会って頂き  
ました。市側は、三上文一市長  
一人。保護団体側は、野鳥の会  
本部から、川崎理事。県支部か  
らは高橋敏夫支部長、志村英雄  
幹事。愛護研究会からは森田の  
、合計四人です。前向きに取りくんでいくことで意見が  
合いました。詳細は後ほどお知らせ致します。

谷津干潟の国設鳥獣保護区化に  
関する公約質問状の回答

現在の日本には、物中心主義の風潮がみなぎ  
っており、

それにもかかわらず、コンクリートジャングルと  
いわれる都会から逃れて、自然に触れたいとい  
う思いが都会の人の心に蘇ってきているのもよ  
い事実です。

谷津干潟に集るといふ鳥の種類が、日本で記  
録された鳥類五〇五種の五分の一にもあたる  
と聞いて、貴重な文化遺産がこの習志野市に  
あることに驚いたり、感激したりしてあります  
私は、自然を守るという事は、つぎつめは外  
なる文化の問題であらうかと存じます  
谷津干潟を国設の鳥獣保護区とすることに  
全面的に賛同いたします。

習志野市民は、近隣都市に負けない文化レ  
ベルを築いてあります。  
必ずやコンセンサスが得られるであらうと確信  
しております。

昭和五十八年四月

三上文一

財団法人日本野鳥の会本部  
会長 山下静一 殿  
支部長 高橋敏夫 殿  
谷津干潟愛護研究会 代表 森田二郎 殿



干潟の一角に路上公園が……

カメラ  
漫歩

秋津5丁目といっても、住宅は  
秋津産婦人科が一軒あるだけで  
が、写真のような路上公園がで  
きました。  
人通りの少ない殺風景なこんな  
場所にといた感じもありますが  
いろいろ期待もできそうです。写  
真左側の分離帯には木が植えられ  
ます。その左側に谷津干潟の生命  
路が流れています。やがてきれ  
いな海水とともに魚の大群が登っ  
てくるでしょう。  
これは、谷津干潟愛護研究会が  
県企業庁を現地案内し、「このゴミ  
の山をどかし、きれいにし、木  
を植えて欲しい」と交渉してで  
きたそうです。

## カニをとる子供達

干潟で、毎日見られる光景で  
す。おそぐく、チゴガニといっ  
て、ハサミを上下に振って体操  
している「体操ガニ」なんです  
よ。子供達のいる所で、一面  
に体操しているのです。



場所は、水上観察舎の所。手前のアシ原は、5年前から作ってきました。

# ふがんど

№260号

1983.5.30

谷津干潟愛護研究会  
 〒275 習志野市谷津干潟中七 臨海ビル5号  
 電話〇四七四一五十一五〇四四  
 文責 森田三郎

会費年2000

創立 1974.12.9

保護区指定へ、その願いを込めて

案内板が二つ、説明板が一つ、  
 として絵の看板が二つの、合  
 計五枚の看板が自然緑地に立て  
 りれました。  
 谷津干潟に来る人達の為に作  
 ったとのことでした。  
 今の谷津干潟には、日  
 曜日もとどなれば、これ  
 といった行事がなくと  
 ど、たくさんの方が  
 来ています。



六、七年前頃の、い  
 わゆるバードウォッチ  
 ヤーが殆んどだった頃  
 とは、奥にかく世の観  
 があります。「草の根  
 的ボランティア活動  
 が、日ごとにその成果  
 を現わしつつあります。

上の看板、ロマンチック  
 クにして、マンガチック  
 な看板です。今度干潟に  
 参りましたら、是非見て  
 やって下さいな。

地べたにはい  
 つくばる如きの  
 この十年、谷津  
 干潟が一日と早  
 く保護指定にな  
 るよう、私達は  
 願っております。



ようこそ、野鳥の王国へ！  
 千葉県支部では現在、日曜  
 日ごとに市民への案内の為、  
 ボランティアグループの結成  
 が進められていくところです。  
 志村ペインター、大いにか  
 んばっています。ペンキ屋さ  
 んになればよかったです。  
 うら塗りをして、雨風 強く  
 しているのです。



# メダカ池のツバメ

## 巣づくりの為のドロ運び

皆さんは、知らないと思うけど、実は、今年、ツバメが巣をつくる為に、メダカの池から、ドロを運んでいました。次々と町のオムツ屋から飛んで来て、粘土を少しづつ、そう、くちばしにくゅえて、又

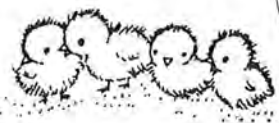
町に向って飛んでいく姿が毎日見られました。よく見ると、こんな所を捜したものと、感心してしまいました。で、ツバメにしたって、巣をつくる材料である粘土は、町の中にはありませんから。今頃、メダカ池の粘土でつくられた巣の中には、かわいりヒナが、ぴりりなりていこでしよう。



## 干潟の詩

# コアジサシの

# 言い分



ぼくの故郷 埋立地  
いつのことやら忘れたが  
夕立去つてすがすがしい  
貝殻山に 虹が立つ  
近くの水辺でシギチドリ  
餌を漁って水遊び  
水草茂れる 水面にて  
行き交うカモ・サギゆれ映る

はまぐり あさり 幾億万  
生きたままにて葬らる  
呼んでもみたのさ 恋しくて  
憶い出すのさ 会いたくて  
「そこまで話した母さんの  
目には涙が光ってた  
夢うつつのぼくたちは  
まんじりともせず聞いたつけ

そんな或る日の昼下がり  
照りつく日ざし さんさんと  
入道雲のその下に  
母さんコアジ飛んできて  
かげろうゆらめく砂の上  
卵のぼくを生みました  
砂のふとんに貝まくら  
兄さん 妹 このぼくは  
昼は太陽 夜は母さん  
日暮の空に天の河  
鳥のさえずり かまびすしい  
街の明かりがチラチラと  
寄せる波間にうつります  
母さん聞かせて遠浅の  
広い干潟のものがたり  
思いたらずみ母さんが、  
つぶやくように言いました  
「七尺下のこのあたり  
わたしの仲間がすんでいた  
体操ガニの群と  
赤銅色の子供たち  
うみほうずきに シヤコヤカニ  
いそぎんちやくに ニシボッコ

或る日 悪い人が来て  
めずらしそうに巣をいじり  
卵の兄さん持ってつた  
気も狂わんばかりに母さんが  
叫び わめいて急旋回  
返して返して 兄さんをノ  
ぼくらが一体何をした  
それでも空しくその人は  
向こうで人に見せていた  
後に残ったぼくたちは  
心で別れをつげたつけ  
それから三日後ヒナになり  
おいしい小魚たべました  
ヨチヨチ歩きのぼくたちは  
人影見ればじっとして  
保護色使つて身を隠す  
もうじき飛べるそんな時  
突然ブルの音がして  
ぼくと母さん逃げたけど  
おうちと妹 粉みじん  
悲しむ間もなく次々と  
七百近くの仲間らが  
同じ運命 遇つたのさ  
土くれツメ跡 痛々しい

涙ながらに捜したさ

さかまく砂じんに滝の雨  
寒さ空腹なんのその

いろんな思い出あとにして  
ようよう大人になりました

「聞いて下さい世の人よ、

うらみつらみの訴えを

心に情けがあるのなら

かけて下さい憐れみを、

追われ追われてぼくたちが

辿りついでの埋立地

「ここが最後のすみかです、」

胸一杯に潮風を

スーと吸ってはばたけば

飛んだぞコロニー足の下

貝殻山が光ってる

真夏の空に高々と

夕陽と雲を背にうけて

トンボ返りに気は踊る

頭をめぐらし巣を見やり

兄さん妹 さようなら

思えば涙が出て来ましよう

ゆくぞ、波濤万里のその向こう

南十字を見ろという

遙か旅路はオーストラリアノ

どうか日本のみなさんよ

来年ぼくらが来たときに

守って下さいノ

「貝殻山」

残して下さいノ

「小さな自然」

創って下さいノ

「サンクチュアリ」

コアジサシ繁殖踏査より 於蒲浜

写真提供 森田三郎



今から  
八年前・・・  
この詩が作られま  
した。昭和五十年で  
す。  
その年、習志野市  
の埋立地、今の秋津  
や香澄、そして茜浜  
に、全国で最大規模  
のコロニー（集団営  
巣地）がありました。  
この詩は、砂じん  
と夏風、潮風とサン  
ドパイプ、孤独と草  
原から生まれました。